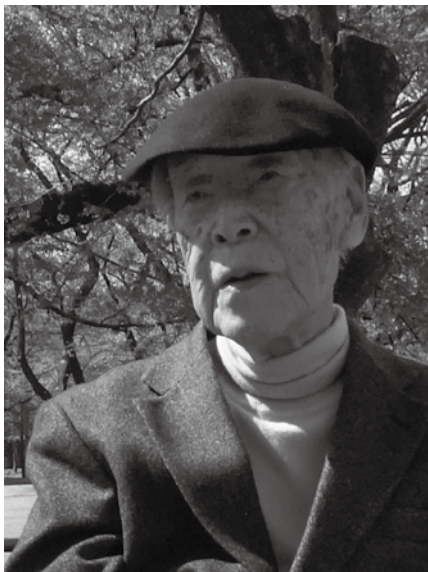


Japanese Society for Science of Design News

発行人 青木弘行 | 編集人 永井由佳里 | 発行所 日本デザイン学会 | 東京都杉並区西荻北 3-21-15 ヘルフォート西荻 703 | <http://jssd.jp>

旅の断章-小山清男先生を偲ぶ

栗野由美

小山先生のご逝去から季節が一巡りいたしました。2009年9月10日、普段通りご家族との朝食の席、会話の途中でふっ、と旅立たれたそうです。このような最期を大往生というのでしょうか。93歳を目前にした生涯に極められたご研究、ご業績を通して親交の深い方も数知れず、私がこの場を務めることをご有恕たまわりたく存じます。

ご家族での密葬の後日、弔問に伺った際、書斎に残されていたという、ペンギンが肘をついて寝そべっている小さなフィギュアを見せていただきました。ご家族の推察によれば、涅槃像との関連で何か考えていたのではないかと、とのことでした。

先生は1916(大正6)年生れ、幼少年期を名古屋市で過ごし、旧制中学校卒業後は東京美術学校工芸科図案部へ入学されました。1940(昭和15)年に卒業して大阪市立工芸学校(現高等学校)に着任、間もなく戦火が厳しくなって名古屋に呼び戻され、一年ほど中部本司令部宣伝班に勤務されました。翌1942(昭和)年から外地(ベトナムのサイゴン、タイのバンコク、ビルマのヤンゴン)の軍駐在事務室に勤務、敵対宣伝のビラ制作、現地の一般民衆宣撫のプロパガンダと日本国内向けに外

地状況を報道する目的での新聞作りをしたそうです。現地の人たちとは人として親しく、新聞にイラストを描いたこと等当時の様子を伺いました。その後戦局悪化で宣伝班封鎖となり電報班に移動して暗号手を勤めて終戦を迎えられました。帰国後は東京美術学校造形理論・図学研究室を拠点に1983(昭和58)年に退官されるまで、図学領域に基軸をおいて、デザイン基礎教育の地盤作りと実践に尽力されました。

先生が教育現場に立った頃は、戦渦を越え、新しい価値を築いていく意欲に溢れた時代で、カリキュラムも何もかも手本のない、手探り、手作りの時代であったと察します。若き日の先生もまた、強い煌めきを放つ新しい造形教育の様々な潮流を解釈しながら、先輩先達諸兄とともに議論を交わしたことでしょう。いくつかの教育機関でも教鞭をとられ、基礎デザイン、製図、透視図法、絵画空間の分析に関するご著書、論文を多く世に著されました。『芸術としてのデザイン』(原著 Bruno Munari: Arte come mestiere, Editori Laterza, 1966、小山清男訳、ダヴィッド社、1973)出版にあたって軽快で深淵なムナリの語り口に膝を打ったり感銘を受けたり of 楽しい思い出を、学校同級の柳先生、ご近所付合いの清家清先生、ほか近・現代美術・デザイン史に語られる人々との素顔の思い出や、日本デザイン学会、日本図学会、形の文化会、美術解剖学会、民族藝術学会等の発足当時のこと、当学会教育専門部会でのことなどを折に触れ伺いました。教職をすべて退かれた後も、定期的に「キンヨウカイ」という様々な学識者の講演・交流会を設けて学びの機会を与えてくださり、最期の一日まで健脚、健康、若々しい精神を保ち、新しい表現や事物に寛容、好奇心旺盛で人の語ることや研究成果に目耳を傾け、刺激を受けて創造的でした。

エッセイ集『旅の断章』(日本出版サービス、1984)のあとがきに、若き日の数年を過ごした東南アジアへの懐かしさを記されています。特に後半生はし

ばしば東南アジア諸国への研究調査訪問を重ね、2006年に『図学的仏画考』、2007年に『遠近法小論』『20世紀絵画寸考』という論文集を発行された後も『クメールの微笑と不機嫌な女神たち』『仏跡パガン巡礼-広野に林立する寺塔のかたち-』他を発表しておられます。92歳の冬の旅でも、観光客や巡礼者に混じって舗装されていない道を何キロも歩き、何段もの陰しい石階段をのぼって写真を撮り、寺塔や神像を図法幾何学的に分析する論考を重ねておられました。その折に、記憶の場所や人の名残を訪ねてもおられたようです。2009年も4、5、6、7月と毎月各地での学会にご出席、学会誌への連載も続けておられました。はじめに触れた「寝そべるペンギン」のフィギュアはやはり、次のご発表に登場する予定であったのでしょうか。祭壇の写真になった先生が、首を傾げる私たちを愉快そうに眺めているようでした。

最後に、2008年から図学研究誌に連載された『ひと筆描き試論』の初回『1. ナスカの地上絵』に触れておきます。ここでは、美術・造形的な痕跡に対する「研究」が、描く動機の根源にある身体的な喜びや自由な心を置き去りにしてはいまいか、と指摘しておられます。何百メートルもまっすぐな溝を掘る陶酔感や、わけもなく渦巻きを描くおもしろさ、大きな絵を描く壮快さ、こどもの悪戯描きのような無垢な心に戻って、「どこから描き始めたか」を図法学にのせて解く試論です。再現性に保証を得る科学は自ら迷路を生む可能性もある、と、凝り固まった“常識”を柔らかにユーモラスな論調で解きほぐしてくださった小山先生。実は幼少期我が菩提寺に住まい、我が小学母校の約半世紀先輩という奇遇を知って以来、毎月二人同窓会を続けて参りました。こうしていま再び先生の書き遺された文章をたどり、お声を思い出しながら、お人柄の滲む言葉の滋味を有り難く、懐かしく、味わっています。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成21年度第8回理事会議事録

日 時 ■平成22年3月13日(土)
10:00～12:00

場 所 ■拓殖大学 文京キャンパス
D館6階第二会議室

出席者 ■青木(弘), 蓮見, 尾登,
伊豆, 君島, 久保, 黒川,
田村, 國本, 小林, 杉山,
梨原, 野口, 古屋, 松岡,
山中, 渡辺, 禹, 國澤,
寺内, 小野

委任状出席 ■青木(幹), 阿部, 荒井,
岡田, 岡本, 勝浦, 河原林,
工藤, 長谷, 生田目, 降旗,
宮崎, 村上

欠席者 ■青木(史), 五十嵐, 坪郷,
原田

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶があり, 長野大学の柳町事務局長が紹介された。

2. 平成21年度第7回理事会議事録の承認

(小野事務局幹事)

平成21年度第7回理事会の議事録案が示され, 一部修正のうえで承認された。

【審議事項】

3. 第57回春季研究発表大会について

(禹大会実行委員長)

禹大会実行委員長より, 第57回春季研究発表大会の大会スケジュール案が示され, 詳細な説明がなされた。また大会ホームページを制作中である旨が報告された。つづいてオーガナイズドセッションの時間帯, ポスターセッション会場の大きさ, 口頭発表会場数などについて審議がなされた。審議の結果, オーガナイズドセッションや閉会式の時刻を変更することとなった。

4. 第57回春季研究発表大会の

オーガナイズドセッションテーマについて

(古屋研究推進委員会委員長)

古屋研究推進委員会委員長より, 第57回春季研究発表大会のオーガナイズドセッションに6件の応募があった旨の報告があり, 資料に基づいて詳細な説明がなされた。スケジュール上, 6件全てのセッションを行うことは困難であるため, このうちから4件のオーガナイズドセッションが選定された。

5. 第57回春季研究発表大会の

テーマセッションテーマについて

(古屋研究推進委員会委員長)

古屋研究推進委員会委員長より, 第57回春季研究発表大会のテーマセッションに5件の応募があった旨の報告があり, 資料に基づいて詳細な説明がなされた。審議の結果, 応募のあったテーマセッション5件が承認された。

6. 特集号英文表示変更および進捗状況について

(小林学会誌編集・出版委員会委員)

小林学会誌編集・出版委員会委員より, 日本デザイン学会誌特集号の表紙デザインを一部変更したい旨の提案がなされた。審議の結果, 英文表示を変更することが承認された。さらに平成21年度の出版進捗状況と平成22年度の出版計画について報告がなされ了承された。

7. 機関リポジトリに関する学会としての方針について

(山中広報委員会委員長)

山中広報委員会委員長より, 機関リポジトリについての概要説明がなされた後, 学会の対応方針案が示された。審議の結果, 本学会掲載論文は, 学会誌印刷形態でのリポジトリは許可しないが, 著者の最終原稿はリポジトリを許可することとなった。ただし, その際には掲載学会誌, 巻, 号, ページを明記したかたちとすることとした。

8. 選挙管理委員の交代について

(國澤本部事務局長・小林選挙管理委員長)

國澤本部事務局長および小林選挙管理委員長より, 選挙管理委員を交代する必要性についての説明があり, 選挙管理委員の交代について審議された。審議の結果, 工藤委員, 白石委員, 玉垣委員, 若林委員に代わり, 菊池司会員, 久保理事, 伊豆理事, 田村理事の4名が委員に選出された。

9. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果, [入会:正会員17名(うち外国人7名)][退会:正会員19名, 年間購読会員1件]が承認された。

【報告事項】

10. 春季大会会計報告

(國本春季研究発表大会実行委員長)

國本春季研究発表大会実行委員長より, 資料に基づき, 春季研究発表大会の会計報告がなされた。

11. 秋季企画大会会計報告

(古屋秋季企画大会実行委員)

古屋秋季企画大会実行委員より, 資料に基づいて, 秋季企画大会の会計報告がなされた。

12. 藝術学関連学会連合シンポジウムパネリスト募集

(黒川担当理事)

黒川担当理事より, 藝術学関連学会の近年の状況について報告がなされ, 2010年度シンポジウムのパネリストの推薦依頼がなされた。

13. 論文審査委員会報告

(渡辺論文審査・編集委員会委員長)

渡辺論文審査・編集委員会委員長より, デザイン学研究第56巻の発行状況および平成21年度の論文審査状況の報告がなされた。

14. 第三支部研究発表会について

(國本第三支部支部長)
國本第三支部支部長より、3月21日に福井工業大学で第三支部の研究発表会を開催する旨の報告があった。

15. デザイン理論・方法論研究部会の活動案内

(松岡主査)
松岡主査より、デザイン理論・方法論研究部会他が、4月10日に学生を対象とした「デザイン塾：デザイン科学講座」を開催する旨の報告があった。

16. 支部活動報告

(梨原第一支部支部長ほか)
梨原第一支部支部長をはじめとする各支部(第四支部を除く)の支部長あるいは副支部長より、支部活動について報告があった。

平成22年度第1回理事会議事録

日 時 ■ 平成22年4月17日(土)
14:30～17:00
場 所 ■ 首都大学東京 秋葉原
サテライトキャンパス会議室
出席者 ■ 青木(弘)、蓮見、青木(幹)、
五十嵐、伊豆、岡本、河原林、
清水、黒川、黄、小林、
佐々木(尚)、佐々木(美)、
佐藤、杉下、杉山、須永、
梨原、野口、古屋、三橋、
山中、渡邊、禹、國澤、
小野
委任状出席 ■ 尾登、車、永井、宮崎、村上、
森田、山崎
欠 席 ■ 伊原、久保、長谷、

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成21年度第8回理事会議事録の承認

(小野本部事務局幹事)
小野本部事務局幹事より平成21年

度第8回理事会の議事録が示され、
原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成22～23年度学会活動方針

(青木会長)

青木会長より、平成22～23年度学会活動について説明がなされた。
杉山監査から、学生のインターンシップに関して、学会として何か活動していくべきではないかとの意見がなされ、産業界との連携強化活動の一環として検討していくこととした。

4. 平成22～23年度学会組織について

(青木会長)

青木会長から、平成22～23年度学会組織について説明がなされた。
また幹事の選考について4月30日までに報告するよう依頼がなされた。

5. 平成22年度学会運営スケジュールについて

(小野本部事務局幹事)

小野本部事務局幹事より、平成22年度学会運営スケジュールについて説明がなされ、理事会の日程について修正がなされた後、承認がなされた。

6. 名誉会員推挙について

(青木会長)

審議の結果、早坂功氏、君島昌之氏を名誉会員として推挙することとした。

7. 平成22年度春季研究発表大会について

(禹春季大会実行委員長)

禹春季大会実行委員長より平成22年度春季研究発表大会について説明がなされた。
山中理事より、「学生研究のシンポジウム」をオープンにした方がよいのではとの意見がなされ、承認がなされた。
また学生の負担低減のため、参加費を学生(会員)3,500円、学生(非会員)4,000円で検討することとした。

8. 平成22年度第57回総会式次第について

(小野本部事務局幹事)

小野本部事務局幹事より、総会式次第について説明がなされ、承認がなされた。
また青木会長より平成21年度活動報告および平成22年度活動計画について執筆依頼がなされた。

9. 平成22年度秋季企画大会および平成23年度春季研究発表大会について

(青木会長)

平成22年度秋季企画大会の開催について審議がなされ、平成22年度秋季企画大会については、筑波大学にて11月13日に開催することで決定がなされた。
また平成23年度春季研究発表大会については、千葉工業大学で開催する方向で検討することとした。

10. “役員の諸活動に対する補助費”の支払いについて

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長から、交通費補助を目的に支払われている“役員の諸活動に対する補助費”の支払いを、年度末一括から理事会毎の支払いに変更したいとの提案がなされ、承認された。

11. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会:正会員37名(内外国人7名、キャンペーン対象30名)、年間購読会員1件]、[退会:正会員23名、年間購読会員1件]が承認された。

【報告事項】

12. 感性工学会とのジョイントセッションについて

(青木会長)

感性工学会の椎塚会長からジョイントセッションを開催したいというお話を頂き、学会として積極的に検討

していきたいとの報告がなされた。

13. 勝見コレクション

多摩美の太田幸夫先生から、
協力依頼がなされた。

(青木会長)

多摩美術大学の太田幸夫先生から、
学会に対して勝見コレクションの整理
に関して協力の依頼を頂き、ぜひ
学会として積極的に参加したいとの
報告がなされた。

14. 科学研究費補助金の時限付き分科細目 「デザイン学」について

(青木会長)

青木会長から、細目「デザイン学」
の恒常化に向けて、ぜひ多くの会員
から応募して頂けるよう依頼がなさ
れた。また三橋理事から、本年度細
目「デザイン学」で補助金を得られ
た方でまだデザイン学会に入会され
ていない方もいると思うので、学会
としてそれらの方と積極的に連携を
図ってはどうかとの提案がなされ、
積極的に取り組んでいくこととし
た。

15. 昨年度キャンペーンからの 移行について

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長から、昨年度の
キャンペーンから新キャンペーンの
移行については、ぜひ早めに移行し
て欲しいとの依頼がなされ、関係会
員に周知するよう依頼がなされた。

記録：小野

平成22年度第2回理事会議事録

日 時 ■平成 22 年 5 月 29 日 (土)
14:30 ~ 17:00
場 所 ■首都大学東京 秋葉原
サテライトキャンパス会議室
出席者 ■青木(弘)、蓮見、尾登、
青木(幹)、清水、小林、
野口、古屋、山中、禹、國澤、
委任状出席 ■渡邊
欠 席 ■須永

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成 22 年度第 1 回理事会議事録 の承認

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より平成 22 年度
第 1 回理事会の議事録が示され、秋
季企画大会の日程について修正がな
された後、承認された。

【審議事項】

3. 平成 21 年度決算・監査報告

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、平成 21 年
度決算・監査について説明がなされ
た。支部、研究部会等における源泉
徴収の手続きについて複雑であるた
め、事務局からマニュアルを提示す
ることとした。支部活動の活性化に
伴い予算が不足する恐れがあるが、
その場合、事前に理事会に計画を提
示すれば、対応については理事会で
審議することとした。また原田監査
から指摘があった支部活動費の次年
度持ち越しについては、活動計画書
を理事会に提出し、承認がなされた
ら、活動準備金として前年度に支払
うことも可能とすることで承認がな
された。

4. 平成 22 年度予算案

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、平成 22 年

度予算案について説明がなされた。
野口財務委員長から学生キャンペ
ーンの効果について今後見守っていく
必要があるとの指摘がなされた。ま
た本年度は学会セミナーの開催を予
定しているため、オーガナイズド
セッションの費用を分割しそのため
の費用を確保することとした。

5. 平成 22 年度活動計画について

(各委員長)

各委員長から平成 22 年の活動計画
について報告がなされた。修正があ
る場合は、6 月 7 日までに本部事務
局に提出するよう依頼がなされた。

6. 平成 22 年度秋季企画大会について

(蓮見副会長)

蓮見副会長から「地域振興とデザ
イン」というテーマで検討中であり、
詳細については次の春季研究発表大
会にて告知を行いたいとの報告がな
された。また昨年度同様、機械工業
デザイン賞の展示を行う方向で検討
することとなった。

7. 平成 23 年度春季研究発表大会について

(山中担当理事)

山中担当理事から平成 23 年度春季
研究発表大会の開催について、千葉
工業大学から承諾が得られたとの報
告があり、平成 23 年度春季研究発
表大会を千葉工業大学にて開催する
ことで準備を進めることとした。

8. ヒューマンコンピューター

インタラクション研究会に関する
共催について

(情報デザイン研究部会(代)青木会長)
情報デザイン研究部会より、情報処
理学会ヒューマンコンピューターイ
ンタラクション研究会に対する共催
依頼があり、審議の後承認された。

9. 会員の移動について

(國澤本部事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審

議した結果, [入会: 正会員 81 名 (内外国人 10 名, キャンペーン適用 55 名), 年間購読会員 1 件], [退会: 正会員 6 名, 賛助会員 2 件, 年間購読会員 2 件] が承認された。

【報告事項】

10. 平成 22 年度春季研究発表大会 について

(禹大会実行委員長)

禹大会実行委員長より平成 22 年度の春季研究発表大会について, 大会プログラム案が提示され説明がなされた。オーガナイズドセッションの概要, また学生企画セッションについて一般公開を追記することとした。

11. 学会各賞委員会の発足について

(松岡担当理事(代)國澤本部事務局長)
松岡担当理事の代理として, 國澤本部事務局長より, 宮崎清先生を委員長として平成 22 年度学会各賞委員会を発足したとの報告がなされた。

12. 各賞受賞英語名について

(松岡担当理事(代)國澤本部事務局長)
松岡担当理事の代理として, 國澤本部事務局長より, 各賞受賞英語名について案が示され, 承認された。

13. 名誉会員のための会員証の 制作について

(國澤本部事務局長)
名誉会員証の制作について, 本部事務局で前向きに検討していくこととした。

記録: 小野

平成 22 年度総会報告

本部事務局

平成 22 年 7 月 2 日 (金), 長野大学上田キャンパスにおいて, 第 57 回総会が開催されました。司会進行は國澤好衛本部事務局長が行いました。司会から, 出席者数は, 会場出席者約 40 名, 委任状出席者が 225 名 (定数 196 名), 総会が成立することが報告されました。

青木会長から, 基本方針を「より充実した学会基盤の整備に向けて」とし, 具体的に 10 の基本施策をあげ, より積極的に活動を展開してゆきたいとの説明がなされました。

議事は田村良一会員 (九州大学) と敦賀雄大会員 (多摩美術大学) の二人の議長団の司会で進行されました。

蓮見孝副会長から平成 21 年度の活動報告があり, つづいて國澤本部事務局長より平成 21 年度の決算報告がなされ, それに対し杉山和雄監査から監査報告がなされました。その後, 会場からの質疑応答を経て議決の結果, 承認されました。

尾登誠一副会長の平成 22 年度事業計画の説明に続き, 國澤本部事務局長から平成 22 年度の予算案の説明があり, さらに山中敏正広報委員長から論文の著作権移譲について説明があり, 審議の結果, 議決されました。

今回, 名誉会員となられた会員の方は, 君島昌之会員 (73 号), 早坂功会員 (74 号) の 2 名です。総会の詳細については, 会報末に総会資料を掲載いたしましたので, ご参照下さい。



青木弘行会長による平成 22 年度活動方針説明



田村良一議長と敦賀雄大議長



國澤本部事務局長による平成 21 年度決算報告



杉山和雄監査による監査報告



山中広報委員長による議事の説明



尾登誠一副会長による平成 22 年度活動計画

会告

■平成 22 年度秋季企画大会

会期: 平成 22 年 11 月 13 日 (土)

会場: 筑波大学

テーマ: 地域振興デザイン (仮)

平成 22 年度春季研究発表大会報告

大会実行委員長 禹 在勇

日本デザイン学会第 57 回春季研究発表大会は、平成 22 年 7 月 2 日（金）から 4 日（土）までの 3 日間、長野県下ではじめて、真田幸村のゆかりの地である上田市にある長野大学上田キャンパスにおいて、「和の文化」と「デザイン」～伝統と現在・未来～をテーマに開催されました。

本大会の実行委員としては、長野大学企業情報学部教員に信州大学繊維学部の教員も委員に加わり、研究発表大会の準備をまいりました。

第 1 日目は、総会および学生企画セッションとエキスカッションを行いました。特に、大会でははじめての企画である、学生企画セッションにおいて、背景の異なる学生同士がワークショップを行う事で、互いの視点の違いから自己を見つめ直し「学ぶチャンス」を拡大することを目的とし、長野のお土産をテーマに、デザイン提案をしてもらいました。また、様々な大学の学生との交流を目的とした交流会も開催され、お互いの大学をより良く知るための企画（研究のポスター発表・授業課題などのパネル展示・ポートフォリオ展示）などを準備し、情報発信の場としても良い機会になったと考えております。また、参加者の方々にはエキスカッション「真田太平記コース」で信州上田の歴史を感じながらの街並みと手打ちそばを楽しんでいただきました。

2 日目および 3 日目は、開会式、研究発表（口頭発表・ポスター発表）、基調講演、オーガナイズドセッションと懇親会を行いました。

まず、2 日目に開会式が行われ、大会実行委員長の開会宣言のあと、開催校を代表として嶋田力夫長野大学学長がご挨拶を申しあげました。

基調講演では、島 喜治（しまよしはる）、島システム会長による「“今”に生かす庶民文化」と題し、「親切さ、



長野大学リプロホールでの島喜治会長による基調講演

美徳、自然と共生する能力などに長けた文化的レベルの高い日本人の庶民文化を現代に生きるものにしてほしい」というお話を頂きました。デザイン行為に最も重要な「コト」は何か？という問いかけに「和の文化」の大切さを考えられるような機会になったように思います。

オーガナイズドセッションは、2 日目は、「地域資源を活用した地域振興デザインを考える―長野県版」と「これからの商品開発におけるデザインの役割とスキル」行われ、3 日目には、「デザイン学のデザイン」と「感性価値と地域デザイン」が行われました。今回は、2 日目の「地域資源を活用した地域振興デザインを考える―長野県版」と 3 日目の「感性価値と地域デザイン」セッションを地域に一般公開し、地域から多くの方々に参加をいただきました。パネリストは、それぞれの専門領域において積極的な発言をしていただき、講演などでも参加者からの鋭い質疑など質の高い議論がなされ、大変有意義な時間となりました。長野県にとっては、これからのデザインに不可欠な地域性をテーマに掲げたこともあり、デザイン領域を超えた多くの方々の参加をいただいたことで、地域共通の課

題に対する関心の高さも伺うことができました。

210 件の研究発表（口頭発表 150 件、ポスターセッション 60 件）では、情報デザイン、デザイン理論・方法、サービス・GUI・製品デザイン方法、サービスイノベーション、家具・木工、デザイン史、デザイン教育、地域振興、地域研究、デザイン方法論、環境デザイン、CG、グラフィック、タイポグラフィ、感性工学、インタフェース、デザインシステム、デザインマネジメント、デザイン評価、環境デザイン、景観デザイン、ユニバーサルデザイン、形態・構成、材料計画などの各分野にわたって、会員の研究成果発表が行われ、多くの参加者との熱心な質疑応答が続きました。

テーマセッションとして、1) 創造性研究部会「デザイン思考」、2) デザイン理論・方法論研究部会（a: デザイン科学の枠組みとその応用、b: 感性デザインと情緒デザイン、c: 創発デザインと最適デザイン、d: ロバストデザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティ、e: 形態論、造形論、表現論）、3) 家具・木工研究部会「伝統的資源と現在学」、4) 情報デザイン研究部会（a: 情報デザインの教育、b: インタラクシ

ンデザインにおけるプロトタイピング、c: 社会的価値を生み出す情報デザイン)、5) サービスイノベーションデザイン研究部会「サービスイノベーションデザイン」など5つのテーマが設けられ、より専門性の高い討議が行われました。

企業展示には、長野地域を中心に、セイコーエプソン株式会社、日置電機株式会社、株式会社トヨシマビジネス、長野県デザイン振興協会、(財)日本インダストリアルデザイン協会、有限会社つばさ洋書、株式会社ツールズインターナショナルなどの企業・団体が出展し、デザイン関連書籍・資料の販売や新しく開発された製品のデモなど大会期間中に行われ、多くの参加者の注目を集めていました。

今回は、大会運営スタッフによるお

もてなしと、オペレーションやサイン計画の徹底により、大変スムーズに大会運営を行うことができ、多くの参加者からも高い評価を頂くことができました。また、本大会の試みとして、高校生にも日本デザイン学会の活動に理解を深めてもらう企画で参加を呼び掛け、約30名の高校生が参加したことが特筆されます。また、本大会のグッドプレゼンテーション賞には、研究発表13件が選ばれました。

総じて、本大会は、長野県下ではじめての開催であり、結果として、研究発表申込数216件(発表取消6件)、参加受付人数574名となり、非常に多くの方にご参加頂くことになりました。ここに、大会運営スタッフ一同、心より感謝申し上げます。また、本大会の運営に際しては、青木会長はじめ学会

理事の先生方や、本部事務局、開催校、上田市、地元自治体、企業・団体など、多くの方々のご支援を頂きました。ご支援をいただいた多くの方々に誌面を通じて感謝申し上げる次第でございます。大会実行委員会のほかに、スタッフの献身的な活動のもとに本大会が無事に終了いたしましたことをご報告いたします。

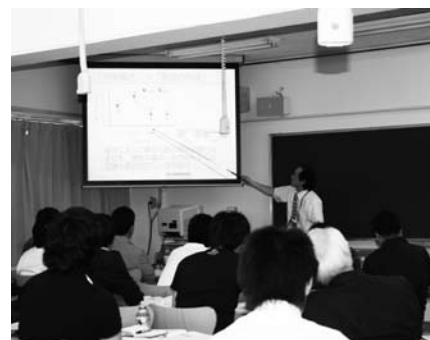
また、本大会における内容は、長野放送(NBS)などにおいて放映されるとともに、信濃毎日新聞、週刊上田、日本経済新聞、東信ジャーナル、信州民報など大会前後にわたり掲載されました。本大会をきっかけに、長野県におけるデザインの新たな認識と発展とともに、日本デザイン学会における活動を期待し、大会のご報告とさせていただきます。



禹大会実行委員長による開会式宣言



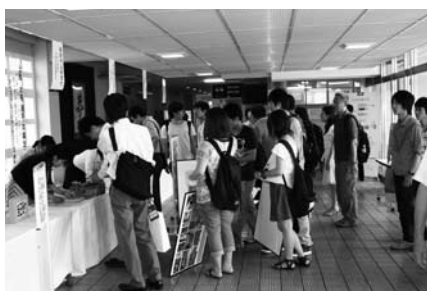
オーガナイズドセッション



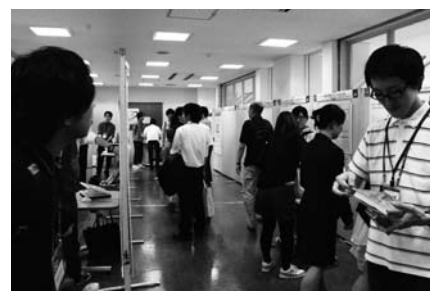
口頭発表



学生企画セッション



大会参加受付



ポスターセッション

第 57 回春季研究発表大会
学生企画セッション

「学生企画セッション
～地域資材をテーマとしたワーク
ショップによる大学間交流」報告

学生企画セッション代表：

濱崎翼，名塚ちひろ

アドバイザー：

岡本誠（公立はこだて未来大学），

禹在勇（長野大学），

寺内文雄（千葉大学）他

平成 22 年 7 月 2 日（金），第 57 回デザイン学会春季大会オーガナイズセッション A として，「学生の手による学会活動」として，学生企画セッションを開催いたしました。本セッションは，3 月の企画開始から筑波大学，公立はこだて未来大学，千葉大学，長野大学，の企画グループが，多いときには週に 2-3 回の Skype 会議や東京での会議を行い，学生の手でテーマやセッションの内容を企画していきました。最終的には，地域資源をテーマとしたワークショップを行うことで大学間交流を図ることを目的としたセッションとして，17 の大学から 60 名の学生（九州大学，工学院大学，公立はこだて未来大学，信州大学，専修大学，千葉大学，千葉工業大学，筑波大学，東京大学，東京藝術大学，東京都市大学，東北工業大学，長野大学，長野県工科短期大学校，法政大学，横浜デジタルアーツ専門学校，和歌山大学）の参加を頂くことができました。また，ゲストの山砥克己氏（千葉大学），八田晃氏（ソフトデバイス）を始めとして多数の学会理事，先生方にご参加いただきました。

まず前半は「地域資材をテーマとしたワークショップ」を行ないました。今回 2 種類の特産品（そば，おやき）を取り上げ，8 グループに分かれての提案活動を 1 時間強に渡って行ないました。その後，グループ単位で一分間のプレゼンテーションを行ない，ゲストの山砥克己氏と八田晃氏より講評をいただきました。



会場の様子



ワークショップの様子



交流会の様子

後半は，学生と社会，学生と研究を繋ぐトークセッションとして，「デザインの可能性とその実践～現場から考える研究活動の価値とは？」というテーマで山砥克己氏と八田晃氏にご講演いただきました。

また，セッション終了後に行われた交流会にも引き続きほとんどの参加者の方にご参加いただき，活発な議論や交流が見られました。

お忙しい中本セッションにご参加をいただきました皆様，セッションの運営にご尽力いただきました開催校の関係者の方々に，この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

第 57 回春季研究発表大会
グッドプレゼンテーション賞発表

選考委員会による厳正なる選考の結果，第 57 回春季研究発表大会グッドプレゼンテーション賞を，以下の 13 件（口頭発表 9 件，ポスター発表 4 件）に決定しましたことを，ここに報告いたします。

【口頭発表】

- 出来事を視覚化するドキュメント・ウォールの活用（原田 泰）
- ヒューマンデザインテクノロジーを活用した GUI 設計手法の検討（平田 一郎，密谷 謙士朗，山岡 俊樹）
- デザインおよび他の学問分野における場の概念（川西 翔樹，松岡 由幸）
- 補装具のデザイン（小野 千代子，蓮見 孝）
- デザイン活動を通じた創造的な看護実践者の育成（石井 成郎，伊東 裕康，穴井 美恵）
- 日本刀の光沢・形状計測に基づいた 3DCG 再現（田中 法博，望月 宏祐，禹 在勇）
- G・T h・リートフェルトのレッド・ブルーチェアに関する研究（中村 卓，鶴沢 隆）
- 発想教育のための基礎的研究 2-b（西田 麻希子，吉原 直彦）
- 製品からみる現代景德鎮の製磁工房文化の変容（李 艶，宮崎 清，鈴木 直人，植田 憲）

【ポスター発表】

- スケルトンファスナーによる空間構成の研究（清野 泰広）
 - マーカーを動的に使った AR によるインタラクティブツール（成澤 慎平，古屋 繁）
 - ピボット構造を生かした歩行補助具のデザイン（國村 大喜，五十嵐 浩也，蓮見 孝）
 - 3 面モニタを使用するインタラクティブ空間デザインを試み（家近 詠子，水谷 元，須永 剛司）
- 選考委員長：渡邊 誠
副選考委員長：禹 在勇
選考委員：五十嵐 浩也，工藤 芳彰，國澤 好衛，小林 昭世，田村 良一，蓮見 孝，古屋 繁

第5支部活動報告

「九州デザイン六大学展 2010
卒業・修了優秀作品展」

第5支部長 青木幹太

第5支部では2009年より、支部内の大学（教員、学生）間交流や地域社会にデザイン情報を発信することを目的に、支部の六大学より優秀な卒業・修了研究作品を集め、一同に展示する「九州デザイン六大学展」を開催しています。2010年度は2年目に当たり、2010年6月6日（日）から6月12日（土）まで九州大学芸術工学府の大学大橋サテライトで開催されました。

参加大学と出展作品数は、西日本工業大学デザイン学部（6点）、九州造形短期大学造形芸術学科（9点）、九州産業大学芸術学部（7点）、近畿大学産業理工学部（6点）、九州大学芸術工学府（7点）、崇城大学芸術学部（7点）の計42点でした。会期中の入場者数は延べ286名で、一日平均40名の方々が来場されたことになります。

本展示会では大学間の交流や若い世代のプレゼンテーション能力の向上等

を目的に、6月5日（土）の作品搬入後、午後2時から午後5時30分まで卒業・修了作品を制作した卒業生（大学院や研究生として在学している学生又は福岡近郊に就職した卒業生）がプレゼンテーションを行い、教員、学生による活発な質疑応答が行われました。当日、出席できなかった卒業・修了生の作品については、所属する大学の教員が代わって説明しました。

プレゼンテーション終了後、九州大学構内の食堂で懇親会を行い、異なる大学の教員や卒業生、在校生がデザインについて語り、さらに親睦を深めました。その際、第5支部の先輩諸氏から次回開催にあたって、出展作品の中から「支部長賞」（仮）を選定し表彰することや出展作品の図録を制作することが提案されました。

第5支部では、2006年より毎年、10月下旬に「研究発表会・懇親会」を行い、2009年より、4～5月に「卒業・修了優秀作品展」を実施しています。今後はこれらの取組みが形骸化しないよう毎年、新しい課題を設定しそれらを達成しながら、取組み全体のレベルアップを図っていきたいと考えています。



住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAX または
綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届」と書き添えて、
事務局までご連絡下さい。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf

にも様式が掲載されておりますので
ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて
お願いします。

本部事務局

平成 21 年度評議員会報告

本部事務局

平成 22 年 3 月 13 日（土）13:00 より、
拓殖大学文教キャンパス（茗荷谷）D
館 6 階第二会議室にて、平成 21 年度評
議員会が開催された。

1. 設立宣言

國澤本部事務局長より、会場参加者
41 名、郵送による委任 51 名の 92
名で、会則に定める定足数（評議員
数 168 の 1/4）に達したため、評議
員会が成立した旨が宣言された。

2. 招集者挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

3. 議長および副議長の選出

会則 24 条第 2 項にもとづいて、議
長及び副議長が選出された。

議長：中嶋猛夫評議員、

副議長：八馬智評議員。

4. 議長、副議長挨拶

中嶋議長、八馬副議長から挨拶がな
された。

5. 議事

1) 平成 20, 21 年度事業報告

青木会長より、別紙資料に基づいて
平成 20 年度、21 年度の事業報告が
なされた。また、各事業の詳細につ
いては、担当理事それぞれから補足



会場風景



理事代表、議長、副議長

説明がなされ、会場からの質問に対
して、質疑応答がなされた。

太田幸夫評議員より、現在、多摩美
術大学に保管されている勝見勝コレ
クションの整理・分類、またそれら
を資料とする共同研究に、ぜひ関心
のある会員の方は参加して欲しいと
の提案がなされ、学会として、会員
への告知をはじめ、積極的に取り組
んでいくこととした。

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが
義務付けられております。

すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、
まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。

また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、
本部事務局へご請求ください。

本部事務局

献本御礼

◆寄贈図書

- ・応用美術思想導入の歴史, 天貝義教, 思文閣出版
- ・平城遷都 1300 年記念出版 NARASIA 東アジア共同体?いまナラ本, 日本と東アジアの未来を考える委員会監修, 松岡正剛編集構成, 丸善株式会社
- ・花嫁はなぜ顔を隠すのか, 増田美子編, 悠書館
- ・DESIGN SCIENCE "SIX VIEWPOINTS" For The Creation of Future, Supervised by DESIGN JUKU, Edited by Yoshiyuki Matsuoka
- ◆予稿集・論文集・報告書
- ・意匠学会活動記録 1959-2009 年学会創立 50 周年記念誌, 意匠学会編
- ・デザイン理論 54 2009, 意匠学会編
- ・デザイン理論 55 2009, 意匠学会編
- ・造形学研究所所報 2010 年六号, 愛知産業大学造形学部
- ・2009 年度愛知産業大学造形学研究科デザイン学専攻修士研究概要集
- ・宮崎大学事業構想学部紀要 2009, 宮崎大学事業構想学部
- ・名古屋大学紀要第 16 号 2010
- ・東北工業大学紀要 I 理工学編第 30 号 2010 年 3 月, 東北工業大学仙台
- ・第 6 回環境調和型設計とインバースマニュファクチャリングに関する国際シンポジウム開催結果報告書, 2010 年 3 月 Eco Design 2009 組織実行委員会
- ・東北工業大学研究業績一覧 2008 年度, 東北工業大学 2009
- ・服飾文化共同研究報告 2009 平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月, 服飾文化共同研究拠点, 文化ファッション研究機構, 文化女子大学
- ・多摩美術大学研究紀要第 24 号 2009 年, 多摩美術大学, 研究紀要委員会編
- ・KUMAGAI UPDATE66 2010, 株式会社能谷組

募集案内

第 10 回 (2010 年)

グリーン・サステナブルケミストリー賞
経済産業大臣賞, 文部科学大臣賞,
環境大臣賞 業績募集

グリーン・サステナブル ケミストリー (略称:GSC) ネットワークでは, GSC の推進に貢献のあった個人, 法人, 任意団体に GSC 賞を贈っています。今回は第 10 回 GSC を募集します。

◆対象となる業績カテゴリー

- ・カテゴリー (A)
- ・カテゴリー (B)
- ・カテゴリー (C)

◆応募方法

応募資料は, 論文等も含め電子情報を E-mail で送付してください。電子情報化できない場合は, ハードコピーも可とします。

◆応募締切

2010 年 10 月 29 日 (月) 17 時
※ハードコピー送付の場合は,
2009 年 10 月 29 日 (金) 当日消印有効

◆応募書類の提出先

gscn@jci.or.jp
※ハードコピー送付の場合は,
(財) 化学技術戦略推進機構内
GSC ネットワーク事務局
〒101-0051 東京都千代田区神田
神保町 1-3-5 富山房ビル 2F

◆問い合わせ先

tel: 03-5282-7866 fax: 03-5282-0250
email: gscn@jci.or.jp
url: http://www.gscn.net/

アイヌの伝統・文化を題材にした
絵本の原作募集

アイヌ文化振興・研究推進機構事業ではアイヌの伝統等に関する知識の普及啓発を図るため幼児向け絵本の原作(絵と文)を募集します。

◆応募方法

応募原稿に応募申込書を添付し、本文原稿には作品名・応募者名・ページ数を、原画裏面には作品名・ペー

ジ数を原稿に明記して下さい。

◆応募締切

平成 22 年 9 月 24 日 (金) 必着

◆問い合わせ・応募の提出先

財団法人アイヌ文化振興・研究推進
機構事業課内「幼児向け絵本」係
tel: 011-271-4171 fax: 011-271-4181
email: ainu@frpac.or.jp
url: http://www.frpac.or.jp

催し物

展覧会

上村松園展

◆会期:平成22年9/7日(火)～10/17日(日)

◆休館日

月曜日 (9/20,10/11 は開館, 翌日休館)

◆開館時間:午前10時～午後5時

(金曜日は8時まで開館)

◆入場料

一般: 1300 円, 大学生: 900 円,
高校生: 400 円

◆会場問い合わせ

東京国立近代美術館
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
url: http://shoen.exhn.jp/

Design ふたつの時代 60s vs 00s

「ジャパンデザインミュージアム構想」

◆主催

日本デザイン団体協議会 (ID-8)

◆会期:平成22年9/17(金)～28(火)

◆休館日:22日(水)

◆開館時間:午前11時～午後7時

◆入場料

一般: 1000 円, 学生: 500 円,

◆会場問い合わせ

ミキモトホール
〒104-8145 東京都中央区銀座 4-5-5
tel: 03-3535-4611

Design シンポジウム 2010

「デザイン縦横無尽」

◆主催

精密工学会 (幹事学会), 日本機械学会,
日本設計工学会, 日本建築学会,
日本デザイン学会, 人工知能学会

◆協賛

The Design Society,
横断型基幹科学研究団体連合,
International Association of
Societies of Design Research

◆日時

平成 22 年 11 月 25 日 (木)・26 日 (金)

◆場所:産業技術大学院

東京都品川区東大井 1-10-40

url:

<http://designsymposium2010.jspe.or.jp/>

第3回横幹連合総合

シンポジウム

◆主催:横断型基幹科学研究団体連合

◆日時:平成22年9月5日(日)・6日(月)

◆場所:早稲田大学早稲田キャンパス

◆事前申込

url:<http://www.wtrastip/symposium2010/>

会員の移動

◆平成22年度第1回理事会承認

2010.04.17

<新入会>

*正会員 38名(うち外国人8名)

青木 孝太朗	新井 青磁
有馬 佑輝	家近 詠子
石田 貴昭	上田 香織
梅澤 朝樹	大野 森太郎
岡 新太郎	折田 芳和
角山 朋子	加藤 晃
亀井 隆昭	菊地 勝英
城戸 太司	工藤 真生
小谷津 のぞみ	佐藤 勉
佐藤 光葉	鈴木 亜弥
高津 美穂	高野 修治
田中 章	那須野 正
深井 将史	深谷 拓吾
宝珠山 徹	堀江 祐介
松本 匠充	三丸 拓也
李 美龍	金 峻永
崔 森	瞿 莎蔚
李 昭賢	劉 俊哲
石 王美	朴 英珠

年間購読会員 1件

(株)真光書店

<退会>

*正会員 23名

石垣 陽	井田 彪
上田 信行	神田 周一
樺田 雄輝	佐藤 圭一
佐藤 達哉	塩見 弘幸
鈴木 香澄	杉田 佳穂
田中 泰彦	滑川 茂
西野 由希子	西村 宜起
沼田 剛	平川 義浩
三上 龍之	宮崎 興二
安井 敏	山永 耕平
吉住 優子	吉田 登美男

渡井 惇喜

*年間購読会員 1件

(株)共栄堂 外商部

◆平成22年度第2回理事会承認

2010.05.29

<新入会>

*正会員 81名(うち外国人10名)

青山 祥平	新井 佑奈
池田 和樹	石田 惇師
石橋 圭太	石本 明生
伊藤 庸一郎	稲葉 貴志
岩田 敦之	江口 奈津美
押田 幸広	春日 和俊
加藤 健太	金子 慶太
木下 教之	木平 崇之
日下部 宏典	久保田 拓朗
暮橋 昌宏	香村 翼
小谷 章夫	児玉 秀範
小林 惇	小向 貴大
三枝 泰之	坂井 大介
櫻田 真也	佐宗 冬樹
佐藤 光輝	滋賀 光太郎
清水 諒介	杉浦 文哉
諏訪部 真	清野 泰広
高橋 紗代	竹田 陽子
武正 秀治	田代 祐子
立原 さおり	田仲 正一
田中 翔子	谷村 秀
富田 有一	中尾 知世
中村 宗一郎	夏目 欣昇
成澤 慎平	成瀬 峻
西林 慶祐	長谷 海平
羽田 安秀	林 恵子
姫野 剛	平本 磨音
福聚 康旭	福永 祐希

堀家 裕一

密谷 謙士朗

武藤 悠助

森田 潤

山崎 友里江

勇木 徳仁

横川 耕二

若松 くるみ

王 宝升

陳 譽云

趙 彦

鄧 建國

Pi-Fen Wang

*年間購読会員 1件

ジュンク堂書店 外商部

<退会>

*正会員 6名

石井 健治

中島 良彩

南 和幸

賛助会員 2件

ニスカ(株)

インタラクショナルイニシアティブ(株)

*年間購読会員 2件

武蔵野美術大学 デザイン情報学科

専門学校 名古屋デザイナー学院

◆平成22年度第3回理事会承認

2010.07.02

<新入会>

*正会員 13名(内外国人3名)

磯野 勇人

岩崎 和市

菊池 雄介

原川 宙

宮腰 直幸

Park Eun kyeung

Jung Young wook

<退会>

*正会員 4名

榎本 吉扶

佐々布 裕季

津田 桜

松尾 毅

松崎 裕一郎

武藤 武志

村山 君学

柳 夏穂

山本 俊光

横尾 俊輔

吉田 桂子

王 淑宜

陳 由宜

金 珉釘

商 倩

姜 惠升

Pi-Fen Wang

*年間購読会員 1件

ジュンク堂書店 外商部

平成22年度 日本デザイン学会秋季企画大会のお知らせ

平成22年度の秋季大会は、筑波大学で開催いたします。1日ではありますが、地域再生とデザインをテーマとした集中討議を行いたいと考えております。会員諸氏のご参加をお待ちしています。

◆ 日時： 2010年11月13日（土）10:00～17:00

◆ 場所： 筑波大学 大学会館・総合交流会館

<http://www.tsukuba.ac.jp/access/gmap/gmap.php?i=135020>

◆ 参加費： 会員・非会員：1000円、学生：無料

◆ テーマ： 地域再生デザイン学の実践と構築

◆ 大会趣旨： 高度経済成長・高度消費型社会の成熟、少子高齢化・過疎化の進展により、日本社会の活力は鈍化しつつあります。特に中間山間地域を擁する地域社会の衰退は深刻です。デザインは、産業と密接に結びつきながら発展してきましたが、社会の基盤の大転換とともに、地域社会の再生に向けた新たな役割が期待されています。

本秋季大会では、すでに各所で意欲的に実践されている地域づくりのデザイン事例を紹介しながらディスカッションをおこない、これからの地域社会とデザインの新たな役割について認識の共有をめざします。あわせて、医学・医療の方法論に学ぶデザイン学のあり方について、提案的な仮説を提示いたします。

また、関連展示をもとにした自由討論、日刊工業新聞社の機械工業デザイン賞受賞製品展示、次代を担う学生による研究プロポジションの展示も行います。秋の一日を、デザイン学研究のために有意義にお過ごし頂ける場といたします。



◆スケジュール

10:00～17:00 ポスター展示、自由討論：医療アナロジーによる地域再生デザイン学の実践

10:00～10:30 学会各賞授賞式

10:30～12:00 日刊工業新聞社主催 機械工業デザイン賞受賞製品プレゼンテーション

12:00～14:00 学生プロポジション展示

14:15～17:00 研究発表／パネル・ディスカッション「地域再生デザインの実践」

- ・医療アナロジーによる地域再生デザイン学のフレームワーク（鈴木雅和・筑波大学）
- ・木の建築による地域再生デザイン（安藤邦廣・筑波大学）
- ・地場産業の再生（池田美奈子・九州大学）
- ・企業CSRによる棚田再生（宇郷良介・NEC環境部）
- ・駅前広場デザインによる地域コミュニティの再生（貝島桃代・筑波大学）
- ・デザインによるソーシャルセラピー（三脇康生・仁愛大学）予定
- ・住民アーティストと団地再生デザイン（鈴木雅之・千葉大学、NPO法人ちば地域再生リサーチ）

17:00～18:00 懇親会カフェサロン（デザイン学会第2支部）

◆企画、連絡：筑波大学 蓮見孝、山中敏正（029-853-2701, 2702）、日本デザイン学会第2支部 佐々木美貴

日本デザイン学会秋季企画大会
”学生プロポ”に参加しませんか！！
「学生プロポジション in つくば・学生の構想力」展示募集

本年も平成 22 年度日本デザイン学会秋季企画大会（筑波大学において、11 月 13 日開催）において、学生プロポジションを実施いたします。学生プロポジションは、学生の交流を主眼とし、より広く、様々な大学や専門学校の皆様からのご応募をお待ち申し上げます。

◆ 概要

平成 22 年度日本デザイン学会秋季企画大会の関連行事として、大学や専門学校の学生たちの作品をお互いに紹介しあうイベントです。展示時間中はフリーディスカッションの自由交流の場といたします。設営および撤収は当日の展示時間前後に行います。

◆ 実施方法

1. 応募資格：
大学生、大学院生、専門学校生のいずれかの個人あるいはグループ。
※原則として、学生不在で展示のみの参加は受け付けません。
2. 対象作品：
卒業研究や研究室のプロジェクトワークなど、あらゆるもの。
3. 出展費：
1 件あたり 1,000 円（人数は関係ありません；当日の現金受付のみ）
※この出展費で本大会と懇親会へも無料で参加できます。
4. 展示形式：
作品とパネル、あるいはパネルのみのどちらでも可。
※展示方法等については、おってご連絡します。

◆ 応募方法

締切：10 月 31 日（日）

下記要領で電子メールでご応募ください。

なお、同一人物が複数件応募する場合も、1 件につき 1 応募とします。応募メール受領後の確認メールをもって応募手続き完了とします。なお発表資料は後日ホームページに掲載し、広く閲覧することができるようにする予定です。ファイル提出方法・締切等は応募者に追ってご連絡いたします。

メールの件名：学生プロポジション応募

送信先：下記のアドレスへ

本文記載事項：

- 1）出展題目、2）発表者の氏名と所属と連絡先（アドレスと電話番号）、3）指導教員の氏名と所属

※グループの場合は全員分記入のうえ筆頭発表者に○をつけてください。

※複数件応募の有無、電源の使用、その他事務局に伝えるべきことなどは適宜で記入ください。

◆ 問い合わせ先

拓殖大学工学部デザイン学科 古屋 繁

E-mail：jssd@id.takushoku-u.ac.jp

平成22年度 日本デザイン学会 第57回総会

■日時：平成22年7月2日(金)
13:00~14:00

■会場：
長野大学 上田キャンパス

総会資料

*本冊子は総会資料を綴じ合わせたものです。
限られた時間ですので十分な説明もできかね
ると思いますが、その節は本冊子によくお目
をお通しくださいまいようお願い申し上げます。

■次第

1. 総会成立の確認ならびに開会宣言... 國澤好衛 本部事務局長
2. 会長挨拶・活動方針説明..... 青木弘行 会長
3. 議長団選出..... 國澤好衛 本部事務局長
4. 議事..... 議長団
 - 4.1. 平成21年度活動報告..... 蓮見孝 前副会長
 - (1) 論文審査・論文集編集委員会..... 渡邊誠 前委員長
 - (2) 作品審査・作品集編集委員会..... 長谷高史 前委員長
 - (3) 学会誌編集・出版委員会..... 河原林桂一郎 前委員長
 - (4) 研究推進委員会..... 古屋繁 前委員長
 - (5) 企画委員会 総合企画..... 尾登誠一 前委員長
 - (6) 企画委員会 支部企画..... 梨原宏 前委員長
 - (7) 教育・資格委員会..... 蓮見孝 前委員長
 - (8) 広報委員会..... 山中敏正 前委員長
 - (9) 財務委員会..... 野口尚孝 前委員長
 - (10) 市販図書企画・編集委員会..... 宮崎清 前委員長
 - (11) 平成21年度春季研究発表大会実行委員会..... 國本桂史 実行委員長
 - (12) 平成21年度秋季企画大会実行委員会..... 古屋繁 実行委員長
 - (13) 学会各賞選考委員会..... 宮崎清 前委員長
 - (14) IASDR担当..... 杉山和雄 前担当理事
 - (15) 日本学術会議担当..... 黒川威人 前担当理事,
蓮見孝 前担当理事
 - (16) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当..... 山中敏正 前担当理事
 - (17) 日本工学会担当..... 國澤好衛 前担当理事
 - (18) 本部事務局..... 國澤好衛 前本部事務局長
 - (19) 第1支部..... 梨原宏 前支部長
 - (20) 第2支部..... 君島昌之 前支部長
 - (21) 第3支部..... 國本桂史 前支部長
 - (22) 第4支部..... 坪郷英彦 前支部長
 - (23) 第5支部..... 青木幹太 前支部長
 - 4.2. 平成21年度決算報告..... 國澤好衛 本部事務局長
 - 4.3. 平成21年度会計監査報告..... 杉山和雄 監査,
原田昭 監査
 - 4.4. 平成21年度決算審議..... 議長団
 - 4.5. 平成22年度活動計画..... 尾登誠一 副会長
 - (1) 論文審査・論文集編集委員会..... 渡邊誠 委員長
 - (2) 作品審査・作品集編集委員会..... 須永剛司 委員長
 - (3) 学会誌編集・出版委員会..... 小林昭世 委員長
 - (4) 研究推進委員会..... 古屋繁 委員長
 - (5) 企画委員会 総合企画..... 尾登誠一 委員長
 - (6) 企画委員会 支部企画..... 青木幹太 委員長
 - (7) 教育・資格委員会..... 蓮見孝 委員長
 - (8) 広報委員会..... 山中敏正 委員長
 - (9) 財務委員会..... 野口尚孝 委員長
 - (10) 市販図書企画・編集委員会..... 宮崎清 委員長
 - (11) IASDR担当..... 杉山和雄 担当理事
 - (12) 日本学術会議担当..... 黒川威人 担当理事,
清水泰博 担当理事,
蓮見孝 担当理事
 - (13) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当..... 松岡由幸 担当理事
 - (14) 日本工学会担当..... 國澤好衛 担当理事
 - (15) 本部事務局..... 國澤好衛 本部事務局長
 - (16) 第1支部..... 梨原宏 支部長
 - (17) 第2支部..... 佐々木美貴 支部長
 - (18) 第3支部..... 佐々木尚孝 支部長
 - (19) 第4支部..... 三橋俊雄 支部長
 - (20) 第5支部..... 青木幹太 支部長
 - 4.6. 平成22年度予算案説明..... 國澤好衛 本部事務局長
 - 4.7. 平成22年度予算案審議..... 議長団
 - 4.8. 論文の著作権移譲について..... 山中敏正 広報委員長
 - 4.9. 論文の著作権移譲について審議..... 議長団
 5. 議長団退席..... 國澤好衛 本部事務局長
 6. 名誉会員証贈呈..... 青木弘行 会長
 7. 閉会挨拶..... 國澤好衛 本部事務局長

平成22－23年度 日本デザイン学会活動方針

会長 青木弘行

基本方針

－ より充実した学会基盤の整備に向けて －

混迷する社会情勢を背景として学術環境も大きな変貌を遂げ、学会活動においても様々な難問が山積しています。平成20年度からの2年間は、会員に取ってメリットのある学会は如何にあるべきかを考え、諸活動を行ってまいりました。さいわいにも、委員会担当理事や委員会を支える幹事諸氏のご尽力により、多くの案件を実行に移すことができました。しかしながら、実現に至るまでには多くの課題を克服しなくてはならず、継続審議中の案件もございます。

そこで、新たな陣容として活動を開始するこれからの2年間は、積み残し案件の実現やより多くの会員が活動できる場の構築に向けて、理事会一丸となって活動を展開してゆきたいと考えています。

皆様方のより一層のご支援やご協力をお願い申し上げる次第でございます。

基本施策

1. 論文集・作品集・特集号のあり方に対する検討

- ・デジタルコンテンツ掲載に向けた方策検討
- ・論文集・作品集投稿区分の見直し
- ・特集号内容の充実策検討
- ・オンラインジャーナル化に向けた具体策検討

2. 会員制度の拡大と財務の改善

- ・学生会員制度の導入
- ・制度拡大に伴う財務基盤の整備
- ・インセンティブ施策の検討

3. 法人化に向けた検討

- ・法人化に向けた対応策と体制確立に向けた具体策検討

4. 学術環境の整備

- ・科学研究費補助金・時限付き分科細目「デザイン学」の正規細目化に向けた方策検討

5. 支部活動活性化策のさらなる推進

- ・支部間における活動情報の共有と連携強化
- ・活動単位（支部地区割）の検討

6. 春季研究発表大会、秋季企画大会の活性化

- ・オーガナイズドセッション・テーマセッション・学生プロポジション等の充実策検討
- ・春季発表件数の増加策、秋季企画内容の充実策検討
- ・参加人数増加策の検討

7. 研究部会のあり方に対する検討

- ・研究部会主導による学会編纂図書の刊行
- ・講習会・セミナー等の開催
- ・部会単独、部会横断テーマによる競争的外部資金獲得策の検討

8. 国内外他学協会、産官との事業連携強化

- ・デザイナーの資格制度と継続教育（CPD）、ア krediteーションのあり方に対する検討
- ・産業界との連携強化
- ・IASDR2013開催に向けた体制整備
- ・国際デザイン学会誌発刊に向けた協力体制の確立

9. 広報活動の強化

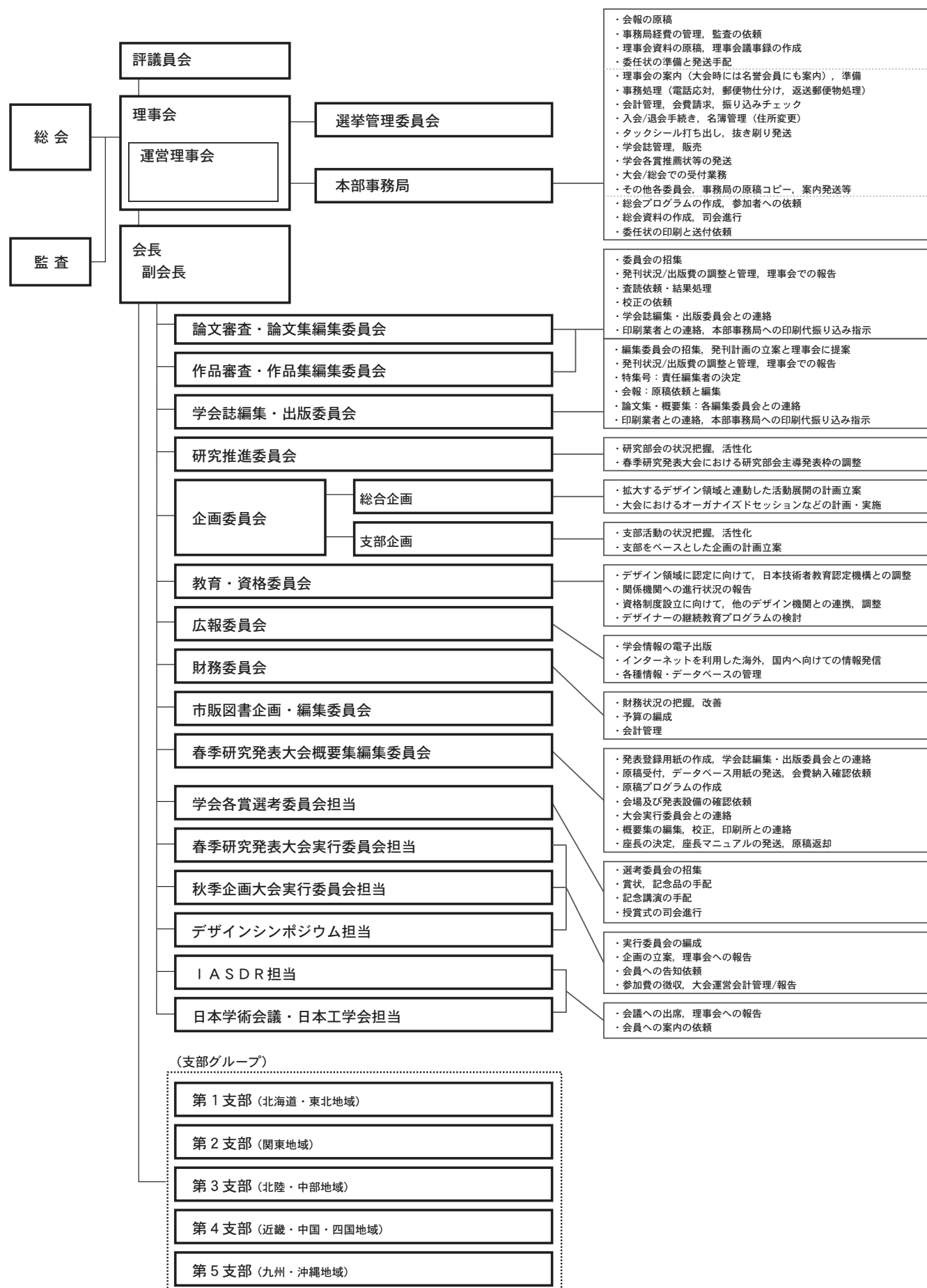
- ・学会ホームページ充実策の検討

10. 会則、諸規定の見直し

平成22年度 会長，副会長，理事一覧

会長	青木 弘行	(千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻)
副会長	蓮見 孝	(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 芸術専攻)
	尾登 誠一	(東京芸術大学 デザイン科 機能・演出研究室)
監査	杉山 和雄	(杉山デザイン研究所)
	宮崎 清	(放送大学学園千葉学習センター)
理事	青木 幹太	(九州産業大学 芸術学部 デザイン学科)
	五十嵐 浩也	(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻)
	伊豆 裕一	(株式会社東芝 デザインセンター)
	伊原 久裕	(九州大学 芸術工学研究院 コンテンツ・クリエイティブデザイン部門)
	黄 ロビン	(名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科)
	岡本 誠	(公立はこだて未来大学 システム情報科学部 情報アーキテクチャー学科)
	河原林 桂一郎	(静岡文化芸術大学 デザイン学部 生産造形学科)
	清水 泰博	(東京芸術大学 美術学部 デザイン科)
	國澤 好衛	(産業技術大学院大学 産業技術研究科 創造技術専攻)
	久保 雅義	(京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 デザイン経営工学部門)
	車 政弘	(九州産業大学 芸術学部 デザイン学科)
	黒川 威人	(金城大学 短期大学部 美術学科)
	小林 昭世	(武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科)
	佐々木 尚孝	(愛知産業大学 造形学部 デザイン学科)
	佐々木 美貴	(環境デザイナー，もうひとつの住まい方推進協議会事務局，愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン)
	佐藤 弘喜	(千葉工業大学 工学部 デザイン科学科)
	杉下 哲	(東京工芸大学 芸術学部 デザイン学科)
	須永 剛司	(多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科)
	永井 由佳里	(北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科)
	長谷 高史	(愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン・工芸科)
	梨原 宏	(東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科)
	野口 尚孝	(フリーランス，仙台高等専門学校)
	古屋 繁	(拓殖大学 工学部 工業デザイン学科)
	三橋 俊雄	(京都府立大学 生命環境科学研究科 環境デザイン学科)
	村上 存	(東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻)
	森田 昌嗣	(九州大学大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門)
	山崎 和彦	(千葉工業大学 工学部 デザイン科学科)
	山中 敏正	(筑波大学大学院 人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻)
	渡邊 誠	(千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻)
特設理事	杉山 和雄	(杉山デザイン研究所)
	寺内 文雄	(千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻)
	松岡 由幸	(慶應義塾大学 大学院 総合デザイン工学専攻)
	宮崎 清	(放送大学学園千葉学習センター)

平成22年度 日本デザイン学会組織



平成22年度 日本デザイン学会 委員会等一覧

○運営理事, *特設理事, +幹事長

本部事務局	事務局長		幹事
	○ 國澤 好衛		+ 小野 健太

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査・論文集編集委員会	○ 渡邊 誠	森田 昌嗣 寺内 文雄 *	+ 植田 憲 八馬 智
作品審査・作品集編集委員会	○ 須永 剛司	清水 泰博 長谷 高史 松岡 由幸 *	+ 敦賀 雄大 氏家 良樹 渡辺 仙一郎
学会誌編集・出版委員会	○ 小林 昭世	車 政弘 永井 由佳里 (会報担当兼務)	+ 佐藤 浩一郎 田代 祐子
研究推進委員会	○ 古屋 繁	伊豆 裕一 杉下 哲	+ 岡崎章
企画委員会 総合企画	○ 尾登 誠一	河原林 桂一郎 村上 存	+ 高山 靖子 長濱 雅彦
支部企画	○ 青木 幹太	梨原 宏 佐々木 美貴 佐々木 尚孝 三橋 俊雄	+ 本間 康夫 細谷 多聞 國本 桂史 比嘉 明子
教育・資格委員会	○ 蓮見 孝	五十嵐 浩也 佐藤 弘喜 長谷 高史 山崎 和彦	+ 青木 史郎
広報委員会	○ 山中 敏正		+ 大島直樹 柿山浩一郎 内山俊朗
財務委員会	○ 野口 尚孝	國澤 好衛	
市販図書企画・編集委員会	宮崎 清 *	山中 敏正	
春季研究発表大会概要集編集委員会	佐藤 弘喜	渡邊 誠	

委員会等担当	担当
学会各賞選考委員会担当	松岡 由幸 *
平成22,23年度春季研究発表大会担当	山中 敏正
平成22,23年度秋季企画大会担当	尾登 誠一
I A S D R 担当	杉山 和雄 * 山中 敏正
日本学術会議・日本工学会担当	黒川 威人、清水 泰博 (第一) 蓮見 孝 (第三) 松岡 由幸 * (横幹連合) 國澤 好衛 (日本工学会)

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部（北海道・東北地域）	梨原 宏	岡本 誠	+ 細谷 多聞 姜 南圭 柚木 泰彦
第2支部（関東地域）	佐々木 美貴	山中 敏正	(選考中)
第3支部（北陸・中部地域）	佐々木 尚孝	黄 ロビン	+ 國本 桂史 滝本 成人 池田 岳史 廣瀬 伸行
第4支部（近畿・中国・四国地域）	三橋 俊雄	久保 雅義	+ 比嘉 明子 荘 心宜
第5支部（九州・沖縄地域）	青木 幹太	伊原 久裕	+ 本間 康夫 松本 誠一 岩田 敦之 井上 貢一 尾方 義人

選挙管理委員会 *平成23年7月31日まで	委員長	委員
	小林 昭世	伊豆 裕一 菊池 司 久保 光徳 田村 良一

監査	
	杉山 和雄 宮崎 清

平成21年度活動報告

論文審査・論文集編集委員会

前委員長 渡邊誠

日頃から会員の皆様には、「学会の顔」ともいえる論文集を質・量の一層の充実にご協力頂きましてまことにありがとうございます。昨年度も、多くの会員諸氏から貴重な研究成果をお寄せいただき、第56巻1号（通巻193号）から第56巻6号（通巻198号）までを刊行いたしました。多少の遅れはありましたが、比較的順調に発刊できたのは、査読員の方々の並々ならぬご尽力の賜であると、心より感謝申し上げます。ボランティアという身勝手なお願いにも関わらず、学会発展のために貴重なお時間を割いていただいたことを考えると、査読員の方々の献身的なご尽力なくして論文集を発刊することはできませんでした。昨年度の投稿件数は、69編となりました。しかし春の研究発表大会や国際会議IASDRにおける活発な研究成果公表状況を考えますと、掲載論文数はまだまだ少ないといわざるを得ません。このような状況は、他の学会ではあまりみられない現象であります。論文集の掲載件数により学会活動の一環が対外的に評価されることを考えますと、さらなる投稿が望まれます。投稿における利便性に配慮して、学会ホームページの「投稿案内」に投稿原稿フォーマットや必要書類一式を掲載させていただきました。最後になりましたが、委員会運営にご尽力いただきました幹事の先生方、そして、快く査読をお引き受けいただきました査読員の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

作品審査・作品集編集委員会

前委員長 長谷高史

21年度において作品集へ応募は29件ありました。一次書類審査、二次現物審査等を経て19件が掲載可となりました。一昨年度より募集期間を伸ばし、一次書類審査締め切り日を8月末日に実施しているが、その効果もあり、今年も29件の応募があったことは夏期の期間において作品書類の作成が可能な時間的余裕が功を奏している結果である事が明白となりました。このことから次年度についても同様な日程スケジュールでお願いしたいと思えます。

しかし、昨年度と同様に2次審査に付いては手間と人的負担も多く、総じて予定期間を大幅に越えてしまい、今年度も発行が遅れる事態を招いてしまった。

この事は、22年度において改善する必要がある。また、活動計画に記した掲載料の見直しやCDROMによる発行については、まだ不確定要素が多くある事から、他の発行物との状況を検討した上で22年度において継続検討していただきたい。また、幹事の体制を充実させて仕事分担をしていくことで効率化が図られると思われることから22年度には体制の強化を望みたい。

学会誌編集・出版委員会

前委員長 河原林桂一郎

平成21年度は、デザイン学研究特集号として第17巻1号通巻65号「デザインマネジメント」、第17巻第2号通巻66号「タイポグラフィ」、第17巻第3号通巻67号「エコデザイン」（6月発送予定）、第17巻第4号通巻68号「ヒューマンセンタードデザイン」（6月発送予定）を発行いたしました。

特集号のデザインは、過年度より踏襲した新デザインにて発行して参りま

したが、新デザインされた河地知木先生（九州産業大学）のご了解のもとで、表紙の一部の表示を第17巻第2号通巻66号「タイポグラフィ」より変更いたしました。

次年度企画としては、第18巻第1号通巻69号「平成21年度秋季大会特集」第18巻2号通巻70号「情報デザイン」第18巻第3号通巻71号「デザインと資格」等を予定しています。

今後、テーマ研究などの内容を反映させた特集テーマの設定や、平成22年度春季大会（第58回研究発表大会）にて企画されているオーガナイズド・セッションの内容やベースとなっている研究部会や支部活動、活発化している行政とデザインの関係、世界のデザイン界の動向、企業デザイン活動の動向などを紹介することが検討され、より広範囲な学会活動を発信する特集号として発展していくことを期待しています。

各特集号の執筆者各位及び編集をご担当いただきました委員長及び委員のご努力に改めて御礼申し上げます。

研究推進委員会

前委員長 古屋繁

デザイン学研究の基幹として、会員にとって価値ある研究部会の活動のあるべき姿を各研究部会と再確認することで、会員にとってよりメリットのある学会をめざした部会活動のさらなる推進と活性化をはかることを、昨年度に引き続き平成21年度の目標として、具体的には、次のような3項を中心に活動してきました。

（1）研究部会活動の支援

春季研究発表大会では、平成21年度も研究部会統括セッション（略称：テーマセッション）を継続し募集した結果、4つの研究部会（創造性研究部会、デザイン理論・方法論研究部会、情報デザイン部会、サービスイノベーションデザイン研究部会）と研究部会

によらない特設セッション（医療・看護デザイン）によるテーマセッションが設けられる運びとなりました。

また、同じくオーガナイズドセッションでは、「ロボットと暮らす明日」「生命からバイオメディカルへ」「DOCOMOMOを考えるー保存と環境デザイン」「タイムアクシス・デザイン」の時代の「新たな社会づくりのためのデザイン」の5件の募集があり、このうち4件が研究部会が中心になって企画運営されたものでありました。

テーマセッション、オーガナイズドセッションともに研究部会が積極的に研究ならびに会員に情報発信していただけの状況にあり、今後もさらなる活動の活性化に期待したいと考えています。

（2）部会による研究活動の発展的展開

これまでの研究活動を広く社会に還元し、またさらなる活動の起爆剤とするために、以下の2つの活動を本年度予定していましたが、1）研究部会主導の編纂図書の刊行支援、2）研究部会の協力をもとに学会主催の定期的な講習会開催を考えていましたが、これらについては十分実施することができませんでした。今後の課題としたいと考えます。

（3）秋季企画大会の活性化

今日的なデザインの課題をとりあげ、考える場として秋季企画大会をとらえ、企画委員会と合同で企画しました。本年度は、平成21年11月15日（日）に拓殖大学茗荷谷キャンパスで「シミュレーション＆プロトタイプ-工学知とデザイン知」をテーマに開催しました。

この企画は、

- ・様々な分野においてシミュレーション技術が急速な発展を遂げているのに対して、その結果のアウトプットの仕方には様々な工夫が必要であり、デザインの役割（デザイン知）がクローズアップされてきていること
- ・デザインのプロセスにおけるスケッチやモデルなどは、ある意味デザイ

ナーが試みるシミュレーションのひとつと考えると、デザインではこのシミュレーションを通して、新たなカタチ（プロトタイプ）を創出することと直結していることをふまえ、多様な役割を求められるデザインにおいて、拡大していくシミュレーションの手法（工学知）とデザイン両分野における新しい融合の形を目指したものです。

講演では、以下の4つの講演とフリーディスカッションをおこないました。

1）シミュレーション技術とデザイン（拓殖大学 菊池 司 准教授）

2）視点①：見えるようになる技術ー視覚化・可視化の地平線（お茶の水女子大学 伊藤 貴之准教授）

3）視点②：試みる技術ーボトムアップとトップダウンのシミュレーション（拓殖大学 水野 一徳 准教授）

4）視点③：体験する技術ーバーチャルリアリティからの発想（中央大学 牧野 光則 教授）

あわせて、別会場では、以下の2つのイベントが同時に開催されました。

1）学生の交流の場として、学生プロポジションも同時に開催しました。28件の展示がされ、昼休みには来場者の方々と展示を前に、活発な議論や意見交換などがおこなわれました。この中から、5名の審査委員が選んだ「学生プロポジション優秀賞」7件が大会終了後の懇親会の会場で表彰されました。

2）日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞の2009年度受賞作品の展示をおこないました。これは、デザインの対象の広がりを参加者に広く認識してもらうことを目的に、特に学生諸君に身の回りにあるものだけでなく、様々な領域にデザインの活躍の場が広がっていることを展示を通して示すためのものでした。

これらの企画については、来年度以降も継続的に実施したいと考えています。

企画委員会 総合企画

前委員長 尾登誠一

デザイン諸領域が横断的に連携展開される局面を俯瞰しつつ、学会内外の要請に呼応した大会テーマの企画、及びオーガナイズドセッションの調整等を行った。また学会員の裾野拡大をめざした「学生会員制度」は、理事会および財務委員会と連携し検討を重ねたが、当面は学生キャンペーンの実施とその成果を待つ必要があるという判断から、会則に関する制度改革は次に持ち越すこととした。

1. 平成21年度春季研究発表大会

会期：平成21年6月26/27/28日

会場：名古屋市立大学芸術工学部北千種キャンパス

大会テーマは「想像」する「創造」ー人間とデザインの新しい関係であり、基調講演として西野仁雄氏による「脳をデザインする」が行われた。またオーガナイズドセッションとして1.ロボットと暮らす明日、2.生命からバイオメディカルへ、3.タイムアクシス・デザインの時代、4.DOCOMOMOを考えるー保存と環境デザイン、5.デザインされたものの提供デザインすることの共有へ、の5本が開講された。また口頭発表、ポスターセッションも盛況であった。

2. 平成21年度秋季企画大会

会期：平成21年11月15日

会場：拓殖大学文京キャンパス

大会テーマは「シミュレーション＆プロトタイプー工学知とデザイン知」であり、1.シミュレーション技術とデザイン、2.見えるようになる技術ー視覚化・可視化の地平線、3.ボトムアップとトップダウンのシミュレーション、4.バーチャルリアリティからの発想の4本の講演とパネルディスカッションが行われた。また、日刊工業新聞社の協力による「機会工業デザイン賞」の展示が併設された。学生プロポジションは多数の参加により盛況であった。

3. 学生キャンペーンの広報：大学院生限定の年会費・入会金減免キャンペーンを、平成22年度4月から2年間の期間限定でおこなうこととし、チラシ等による広報活動を展開した。

企画委員会 支部企画

前委員長 梨原宏

本委員会は、学会活動の活性化を支部の諸活動を通して支えるために、各支部同士の連携や情報の共有化などを目的に設置されている。平成20年度、21年度を通じて、各支部において、それぞれの置かれた状況の中で可能となる、独自に企画した支部大会、研究発表大会、研究会、セミナー、デザインカフェなど、支部会員、社会人、学生らを取り込んだ支部活動が熱心に行われました。各活動の情報は、漏れなく全国会員に届けられており、支部活動への理解は進んでいると思われる。

課題であった「支部で開催される研究発表などを学会の成果物として承認する仕組みを検討すること」に対しては、第5支部による研究発表大会の開催において、研究発表梗概集が発行され、その仕組みが具体化された。また、「学部学生の学会参加への仕組み作りの一歩として支部活動への学生参加を積極的に促すこと」の課題に対しては、第5支部の取り組みに加え、第1支部大会での東北・北海道地区の学生と、呼びかけに応えた関東地区他の学生の参加に見るように、その仕組みは広がりを持ち始めた。このように、各支部の独自の活動の中で、支部活動の仕組み作りは、それぞれの持ち味をもって進んで来ていると判断される。

課題となるのは、各支部内の大学間の距離にある。活動をさらに昇華して、定常的な活動にするためには、現在の5支部を、距離的に集まり易い組み合わせに分割して活動を促す考え方もあると理解される。しかし、現在の各支部の状況を見る限り、それまでの内力はまだ備わっていないものと判断さ

れ、各支部内でのさらなる取り組みを期待したい。

教育・資格委員会

前委員長 蓮見孝

主に2つの課題について検討をおこないません。第1の課題は、教育の国際化を視野に入れたデザイン領域における「技術者教育プログラム」を構築することです。これについては、技術者教育を主導的におこなっている日本技術者教育認定機構(JABEE)との連携が必要と考えましたが、本学会主導でデザイン学の技術者教育プログラムを立ち上げることは規模的に難しく、現実的な課題から優先的に取り組むことにしました。そこで第2の課題である「継続教育」(CPD=Continuous Professional Development)について、計3回の教育・資格委員会を開催し具体的な検討を進めました。デザイン領域に「技術者教育プログラム」や「継続教育」を導入する必要性について論議をおこないながら、学会会員がその意義について共通認識が持てるような教育・資格制度のあり方を模索しました。特に継続教育のしくみを構築するための第1歩として、日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)が推進するデザイナー検定制度に注目し、その導入状況について情報を収集しながら、学会の特質を有効に生かし得るプログラムのあり方について検討し、地道な学会活動の成果を記録・評価し得点化する「ポイント制度」や、学位取得、研究・教育職をめざす人のための「研究ロードマップ」の整備等の具体的な方策を構想しました。

広報委員会

前委員長 山中敏正

年度当初の計画に即して、以下の活動を行いました。

1. 情報コンテンツの適切な活用による

学会員サービスの向上

電子図書館サービスにおける資料提供範囲を拡張する努力を行い、学会誌のより柔軟な活用方法につなげる。このため、1997年以前の学会誌掲載論文の電子的複製権の譲渡について検討したが、全執筆者全てから著作権譲渡の同意を取る現実的な手段がみあたらず、学会総会または評議会を利用する方針を確認した。

2. オンラインジャーナル化の準備

学会誌のオンラインジャーナル化として、情報学研究所のCiNiiを利用する方法を継続して採用し、JSTを利用した学会誌編集システムを用いる具体的方法を検討し、移行準備にとりかかった。

3. 研究論文等の所属機関におけるリポジトリについて、学術情報の社会的利用促進のため、一定の条件のもとでこれを許諾する決定を行った。

4. wwwのコンテンツの維持管理

wwwによる適切な情報提供を行った。

5. 諸外国からのデザイン情報の流入促進を図るため、の英文による情報提供方法について検討したが、継続課題となった。

財務委員会

前委員長 野口尚孝

21年度活動計画としては、20年度活動計画の継続という方向で行ってききましたが、その内容は以下の通りです。

(1) 学生会員に対する優遇措置を実施し、若手会員の維持増加を図る。

(2) 会費納入率の維持向上について具体策を講じる。

(3) 会員増加に寄与できる事業のアイデアを検討する。

(4) 研究誌の電子購読化による、研究誌出版経費および郵送費の削減を図る。

まず、(1)については、企画委員会のご協力により、本年4月から、学生会員の入会金、年会費減免キャン

ペーンが2年間の期間限定付きで実施されることになりました。この期間が終了するまでに、その財務的効果および問題点を検討し、さらにキャンペーンを継続させるか、会則を改定し学生会員制を恒久的に導入するか、あるいはそれらとは別の形をとるかを決めたいと考えております。

(2)に関しては事務局のご尽力により改善傾向が見られるようなので、現状のまま様子を見ることとします。

(3)については、企画委員会の事業として実施。

(4)については、広報委員会との協力で研究誌の電子化およびダウンロードによる購読の実施を行いつつありますが、全面的電子購読化にはNIIおよびJ-Stageなどとの関係でいくつかの問題点があり、今後の可能性について広報委員会において検討して頂いております。

市販図書企画・編集委員会

前委員長 宮崎清

既にお示しした活動計画では、次の2点を本年度の事業に掲げておりました。

①『デザインのあゆみ事典』(仮称)の市販図書としての編纂に向け、今までに完成している明治以降から今日までの年表、今までにいただいている史実解説をCDに整理し、整理が終わった段階で、学会報等を通じて本学会員諸氏から希望者を募り、お申し出いただいた方々にCDをお届けするとともに、ご執筆いただける史実解説のご執筆を依頼する。このような手順を経ながら、市販図書としての刊行が可能か否かを判断していく。

②市販図書の刊行は、『デザインのあゆみ事典』(仮称)に限ることなく、例えば学会誌に掲載されてきた論文を再編集し、いくつかのテーマに分けて、広く市民にもお読みいただける図書を刊行することも可能なように思われ、その可能性をも含め、検討を進める。

①ならびに②は、本年度鋭意に作業してまいりましたが、年度内に終えることができませんでした。

ただし、①についてはいただいている原稿の整理がだいぶ進展しましたので、平成22年度半ばには、希望者にCDを配布するとともに、ご執筆いただける史実解説の依頼をすることができると思います。

②については、現在学会誌創刊号から最新号までに掲載された研究論文のジャンル別分類を行って

おり、それが終了したところで、ジャンル別委員を選考し、市販図書としての企画を立てていきたいと考えています。

平成21年度春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 國本桂史

平成21年度の第56回春季研究発表大会は、平成21年6月26日(金)から28日(日)まで、「想像」する「創造」～人間とデザインの新しい関係～をテーマとし、愛知県名古屋市の公立大学法人名古屋市立大学大学院芸術工学部・北千種キャンパスで開催されました。本研究発表大会は、國本大会実行委員長による開会の辞と共にスタートし、会員を中心に400名を超える参加があり、一般公開を行った基調講演・オーガナイズドセッション等へは、多くの学生や地域市民の方々が参加され、大変盛会に開催することが出来ました。

近年では、産業界が迎えている大きな変革や技術的な進歩とともに、デザインが対象とする分野も「医療・ロボット・航空宇宙分野」へと拡大しています。そこで、改めて「人間」と「デザイン」の関係性について考え、未来を「想像」し「創造」するために、本大会のテーマを「想像」する「創造」～人間とデザインの新しい関係～としました。日本を代表する産業の多くが集まる名古屋という地域の特性を活

かし、参加者の方々の想像力を刺激するような大会の開催を目指しました。

基調講演では、大会会長でもある名古屋市立大学 西野 仁雄 学長・理事長を講師にお招きし、「脳をデザインする」というテーマでお話しいただきました。「脳」と「こころ」の相互作用について、脳の科学的なしくみやはたらきを基に語られ、「私たちは自分の可能性を信じて大いに努力すれば、脳はそれに応えてくれるのです」と締めくくられました。

オーガナイズドセッションでは、3日間にわたり、「ロボットと暮らす明日」(瀬名 秀明氏ほか)、「生命からバイオメディカルへ」(石原 謙氏、横井 基夫氏ほか)、「DOCOMOMOを考えるー保存と環境デザイナー」、「タイム・アクシスデザインの時代」、「新たな社会づくりのためのデザイン」という5つのテーマでセッションを設けました。パネリストにはデザイン関係者だけでなく、工学関係、医学関係、作家などそれぞれの専門家を迎え、積極的な発言に参加者からの鋭い質疑も続き、密度の高い議論がなされ、大変有意義な時間となりました。これからのデザインに不可欠な大変興味深いテーマを掲げたこともあり、専門領域を超えた多くの方々の参加があり、共通の課題への関心の高さも伺うことができました。

200件あまりの研究発表(口頭発表161件、ポスターセッション41件)では、デザイン理論・方法論、情報デザイン、サービスデザイン、医療・看護デザイン、創造性研究、ユニバーサルデザイン、地域振興、地域研究、家具・木工、デザイン史、ファッション、建築、インテリア、景観デザイン、デザイン教育、タイポグラフィ、グラフィック、形態、構成、CG、デザイン計画、インターフェイス、デザインマネジメント、デザイン評価、感性工学、デザインシステム、デザイン方法論、デザイン論等の各分野にわたって、会員の研究成果が発表され、熱心な質疑応答が続きました。テーマセッションと

して4つのテーマが設けられ、より専門性の高い討議が行われました。

企業展示には、名古屋地域を中心に7社の企業・団体が出展し、デザイン関連書籍・資料の販売や新しく開発された製品のデモを行いました。大会期間中、プロクレイモデラーによるクレイモデル制作の実演も行われ、多くの参加者の注目を集めていました。

大会初日の夕方には、エクスカーションが行われ、エクスカーションAでは「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」の見学を行い、エクスカーションBでは徳川美術館に隣接する「ガーデンレストラン徳川園」で池泉回遊式の日本庭園を望みながら、フレンチのフルコースによる食事会を行いました。そして最終日、Autodesk社によるAliasのチュートリアルセミナーで全プログラムが終わりました。

今回は大会運営スタッフによるオペレーションやサイン計画の徹底により、大変スムーズに大会運営を行うことができ、多くの参加者からも高い評価を頂くことができました。

第56回春季研究発表大会のグッドプレゼンテーション賞には、以下の研究発表が選ばれました(所属省略)。

○ 文楽人形の動作表現技術の解明(櫻哲郎, 森田寿郎, 植田一博)

○ ヴィジュアル言語 Viscuit を利用した連続ワークショップ(笠井優, 原田康徳, 大島久雄, 高宮由美子)

○ 表現活動プログラムをデザインするための枠組み(小早川真衣子, 永井由美子, 敦賀雄大, 高見知里, 原田泰, 須永剛司)

○ セキュリティを基軸とした社会サービスデザイン(石垣陽, 茅野貢)

○ 光造形法による口蓋床制作へのラピッドプロダクトの応用に向けて(嶋野宇一郎, 國本桂史)

○ 振り返りとリアルタイムによる情報交流プログラムの効果(熊澤貴之, 齋藤美絵子)

○ A Study for Developing Universal-Design Road Signal (Taro Ochiai)

○ 河川流域に設置されている標識類

の改善に関する取り組み(曾我部春香, 森田昌嗣, 佐伯謙吾, 石橋伸介, 石川映子)

○ ブラウン管テレビに見るデザインの変遷(伊豆裕一)

○ 建築家アンジョロ・マッツォーニの駅舎と家具デザイン(臼井敬太郎)

○ 思い出横丁のアートイベントからコミュニケーションデザインへ(笠尾敦司)

○ William Gamble の活字研究(後藤吉郎, 森啓, 横溝健志)

○ 反復効果に着目した道路内部景観に関する研究(3)(永見豊, 永田裕典)

○ 押し出し回転構造の研究(堀内芳明)

○ アイデアスケッチにおけるデザイン発想支援法の研究(渡辺一樹, 佐藤弘喜)

本大会では、デザインに関する専門家・研究者に加え他分野の方々の参加もあり、また、発表も多岐にわたりそれぞれの意見を活発に交換することができました。“想像”する「創造」～人間とデザインの新しい関係～の大会テーマに相応しく、多くの参加者がこれからのデザインについて考える良い機会になったと思います。次回大会ではさらに発展したデザインの研究発表がなされることを大いに期待いたします。

学会各賞選考委員会

前委員長 宮崎清

本年度学会各賞選考に関する選考について、ご報告いたします。

【選考経過】

①本委員会委員に昨年度刊行の学会誌一式を事務局より送付し、改めて眼を通すよう依頼した。

②会員、論文審査委員会委員、各賞選考委員会委員から本委員会に下記の推薦が寄せられた。

・年間優秀論文賞候補 10件
・年間作品賞候補 2件

③上記候補の個々につき3名の査読・審査委員を本選考委員会委員のなかから選考し、事由を付した選考結果を、書面にて本委員会委員長に提出するよう依頼した。

④委員長は寄せられた選考事由書一覧を作成・配布するとともに、個々の件に査読・審査委員のすべてが合と判断したものを本委員会による最終選考とすることを諮り、委員全員の了承を得た。

【選考結果】

・年間優秀論文賞：針貝綾

「初期ユニット家具シリーズ：ブルーノ・パウルの「タイプ家具」～ミュンヘン手工芸連合工房における低価格家具生産の試みと規格化の萌芽～」
論文集55巻4号掲載

事由：ユニット家具を調査対象に掲げ、近代デザイン史の中核的テーマである工業化とデザインの関連を、ミュンヘン手工芸連合工房の資料に準拠して解析している点が評価される。

・年間作品賞：西川潔

「公共サインの研究～つくば市を事例として～」

作品集14号掲載

事由：認知性・ユニバーサル性などサインシステムとして必須の条件を満たしているだけでなくアートポストによって訪問者に印象を残すものとなっており、作品としての新規性、品位が創出されている。

平成21年10月1日

平成21年度学会各賞選考委員会

委員長	宮崎清
委員	青木弘行
	庄子晃子
	杉山和雄
	鈴木邁
	中嶋猛夫
	長谷高史
	原田昭
	松岡由幸
	宮内愼
	森典彦

IASDR担当

前担当理事 杉山和雄

年度当初の計画に即して、以下の活動を行いました。

10月19日～22日に、ソウルのCOEXでIASDRとしては第3回となるIASDR2009が開催され、本学会を代表してこれを全面的に支援した。

概要によるエントリー：1024

概要採択：724

採択論文：504（ポスター：138，口頭発表：366）

特別論文：22

合計発表論文：526

参加者：613名（39カ国，事前登録：558，当日参加：5）

日本からは85名（一般：51，学生：33，懇親会のみ：1）の参加があった。

また、同時に開催された理事会には日本からは、杉山委員，山中委員が出席し、以下の事項について検討を行った。

1) 新規メンバーの承認（台湾から新理事 Fong-Gong Woo 氏（成功大学））

2) 第3回 IASDR 大会の運営状況の報告

3) 第4回 IASDR 大会の計画：IASDR2011は、デルフト工科大学

4) 次期執行部の選出

現会長を再選，財務担当を Fong-Gong Woo 台湾デザイン学会長に変更

5) 財務報告：2008年度は会費を徴収，2009年度会費は請求しない

6) IASDR がデザインに関する国際論文の格付けを行う可能性。

7) 2013年大会はアジア圏での開催となり JSSD 担当の方向で調整した。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

前担当理事 黒川威人

「日本学術会議法」が2002年に一部改正され、これに伴う学術会議組織の大幅改変によって「芸術学関連学会

連合」が生まれてから4年が経過しました。

主な活動である公開シンポジウムは第4回目を日本学術会議哲学委員会との共同主催で、京都国立近代美術館において6月に開催しました。テーマは「芸術とインタラクティビティ」で、当学会の研究者にとっても興味深いものに思われましたが、当学会からの参加者は残念ながら、ごく少数にとどまりました。

21年度は、役員の改選があり、会長には引き続き美学会から西村清和氏（東大）が選出されました。また新会長からの要請により、監査の一人は日本デザイン学会から出すことになり、清水泰博氏（芸大）に引き受けていただきました。

第5回のシンポジウムテーマについては、従来の各学会からの推薦制度によらず各学会の個人でも応募できることとなり公募の結果、当学会員からも複数の提案がありましたが、残念ながら採択にはいたりませんでした。

結局、先般フライヤーでお知らせの通り、美術史学会と美術科教育学会メンバーとの共同提案になる「変容する芸術生成の場」のテーマのもと、22年6月に東京都現代美術館において開催されることとなったのです。

日本学術会議

第三部／理学・工学

前担当理事 蓮見孝

昨年度から第三部／理学・工学を担当することになりましたが、日本学術会議の大幅な組織変更に伴い、活動母体となるデザイン関連の委員会／分科会がなくなったこともあり、特筆すべき活動はおこなえませんでした。活動計画に挙げたデザイン学の科研費細目化については、九州大学の芸術工学研究院と工学研究院の関係各位のご尽力により、平成22年度の科学研究費補助金の公募から、「デザイン学」が時

限付き分科細目として新たに加えられました。

横断型基幹科学技術

研究団体連合

前担当理事 山中敏正

年度当初の計画に即して、以下の活動を行いました。

2009年度報告

横幹連合広報委員として広報資料の充実を支援した。また、12月に東北大学で開催された「横幹カンファレンス（東北大学）」において研究発表を行うと同時に、理事会に出席し、デザイン学会に於ける横幹連合活動への提言を行った。

日本工学会

前担当理事 國澤好衛

社団法人日本工学会は、明治12年（1879年）に設立された工学系の学協会の連合組織であり、会員は100を超える理工系学協会で構成されています。その委員会である事務研究委員会、概ね会員学協会の事務局長を委員として構成され、学協会が共通に抱える喫緊の課題が議論の中心となっています。現在は、公益法人制度改革に伴う新公益法人へのスムーズな移行に向けて、学協会連合としての総意を内閣府などへ要望として提出する、あるいは認定に向けた準備作業としての情報収集などを行っている。また、PDE協議会は継続教育がテーマとなっているが、これも、本学会の今後の活動に重要な視点を提供してくれている。今後とも継続して情報収集に努め、本学会運営の参考にしていきたいと考えています。

本部事務局

前本部事務局長 國澤好衛

平成21年度末の会員数は、正会員1,825名(昨年度1,819名)、賛助会員29件(昨年度36件)、年間購読会員54件(昨年度58件)で、全体的に減少傾向にあるのは否めません。今後、注視して対策に取り組む必要があると考えております。

学会法人化ではありますが、法律の運用指針について未だ不明確な部分があり、他学協会やデザイン団体(D8)なども対応に苦慮しているのが実情であります。また長年懸案事項でありました税務処理に関して専門家に相談することにより、対応方法が定まりましたので、今後は他学会の動向など勘案しながら、学会のあるべき姿を模索していきたいと思っております。

第1支部

前支部長 梨原宏

第1支部では2年に1回、支部大会を開催し、距離的に離れている会員同士の連携を深め情報を分かち合う活動を進めてきた。それを受けて、平成21年9月に、第一支部第3回支部大会が、理事：岡本誠実行委員長のもと、公立はこだて未来大学と函館市地域交流町づくりセンターを会場にして開催された。第1回、第2回大会が東北の仙台と山形での開催であったことから、待望の北海道での大会となった。大会では「情報デザインのチカラ」をメインテーマに、学生、社会人にも呼びかけ、デザインと社会との関係を、口頭発表、インタラクティブ発表、シンポジウム(デザインの力)、学生デザインワークショップの開催を通して共に学び語り合いあった。その結果、日本デザイン学会研究発表大会とは一味違う、本地区ならではの熱い交流ができた。全体の参加者は140名で、そ

のうち会員は約110名(学生含む)、市民約30名であり、学生デザインワークショップ(参加者80名)には、第1支部以外の関東地区(4大学)、関西地区(1大学)からの学生の参加があり、テーマ設定とその投げかけ如何で、学生参加の輪を広げることができたことが分かった。このように、2年に1回の大会開催ではあるものの、さらに継続して開催することで支部会員相互と学生同士のつながりは深められると期待される。

第2支部

前支部長 君島昌之

第2支部では2008年度に1回、2009年度に2回、合計3回のセミナーを開催した。

■「近代産業とデザイン史：製品開発を支えたデザイン活動の系譜」

・開催日：2009年9月13日(土)、13:00～17:00

・会場：東芝科学館(神奈川県川崎市)
・参加者：60名(大学・専門学校の教員、企業関係者、学生)

・アテンダント案内によるガイドツアーにより、東芝科学館の明治から現代までの近代産業を支えた技術展示、製品コレクション見学に加え、一般には公開されていない大正時代以降の電気製品のコレクションについて、修復作業を行う職員からの解説。

・同館所蔵のからくり人形によるデモンストレーションや構造の解説。

・1955年に発売され、日本の主婦の家事労働を大きく変えた、東芝の初代電気釜の開発などをテーマとしたデザイン史に関する講演。

・製品開発におけるデザインの役割等をテーマとした参加メンバーによるディスカッション。

■「第2支部・教育部会合同セミナー：これからのデザイン教育を考える・第1回」

・開催日：2009年9月13日(土)、13:00～17:00

・会場：日本デザイン専門学校

・参加者：40名(大学・専門学校の教員、企業関係者、学生)

・日産自動車株式会社、橋本氏による小学生の子供達を対象としたカーデザイナーの仕事紹介や簡単な実習によるCSR活動の事例を紹介。

・株式会社東芝、伊豆(副支部長)によるデザインスケッチによるアイデア展開をテーマとした理工系学生へのデザイン教育の事例紹介。

・玉川大学、中島氏による基礎造形に基づく大学でのデザイン教育の事例紹介。

・参加者を交えたディスカッション。

■「第2支部・教育部会合同セミナー：これからのデザイン教育を考える・第2回」

・開催日：2009年12月4日(土)、15:00～17:30

・会場：日本デザイン専門学校(JR代々木駅)

・参加者：20名(大学・専門学校の教員、企業関係者、学生)

・グラフィックデザイナー永井氏による「グラフィックデザインの現場から教育を考える～マッチ箱から飛行機まで」13のキーワードを中心としたグラフィックデザインプロセスに関する講演。

・君島(支部長)による「教育部会活動(21世紀のデザイン教育を考える)報告」後、デザイン教育に向けた問題提起をし、参加者を交えたディスカッション。

3回の活動において大学・専門学校の教員、企業関係者、学生をはじめとするのべ100名が参加、その後の懇親会にも半数近くが参加し、会員相互の親睦を図ることもできた。



会場風景

第3支部

前支部長 國本桂史

第3支部は、20年度同様、支部活性化を目指し以下の活動を中心に支部活動を行いました。

1. 第3支部研究発表会・懇親会

平成22年3月21日(日)福井工業大学福井キャンパスで開催し、44名が参加。口頭発表21件ポスター発表12件。いずれも昨年を上回る発表件数となり、回数を重ねるに連れ発表件数が増えることは、この研究発表会が、学生の発表の場であり、会員の春季大会のプレ発表の場としての位置づけが定着してきたといえます。また、今年度は会場を福井県としたことから、福井工業大学をはじめとする北陸方面の発表者が多く、土地柄をテーマとした興味深い研究が多数ありました。懇親会は福井市が一望できる、明るいデザインルームで開催され、第3支部会員、及び学生参加者の意見交換が活発に行われました。

2. サイエンスデザインカフェ

デザインとサイエンスの出会い場所としてのサイエンスデザインカフェを5月9日(土)PM5:30から名古屋栄のアサヒドーカーメラ2Fギャラリー特設カフェにおいて、生田幸士教授(名古屋大学大学院工学研究科)をゲストスピーカーとして開催されました。一般参加者40名でした。

3. 第56回春季研究発表大会の支援

平成21年6月26日(金)から28日(日)まで名古屋市立大学大学院芸

術工学部・北千種キャンパスで開催され、400名を超える参加がありました。第3支部では本大会の開催準備、運営のサポートを実施しました。

4. Webサイトとメーリングリスト事業

Webサイトとメーリングリスト充実へ向けて計画の検討を実施しました。

第4支部

前支部長 坪郷英彦

1) 地域生活文化研究会の一環として、学外演習を、平成21年9月21日(月)-23日(水)に、京都府宮津市由良地区において実施した。テーマは「由良の自然を学び、由良の自然と遊ぶ--丹後由良エコパークづくり、動植物調査、小学生との田舟遊び」とし、参加者は、京都府立大学(三橋+19名)、滋賀県立大学(面矢+8名)、宮津高校生(10名)の計39名であった。演習の内容として、エコパーク整備(小径づくり)、エコパークの動植物調査(採集と標本づくり)、由良小学生を対象とした標本の説明、田舟遊びなどを実施した。「野に出て生活を学ぶ」を基本姿勢として、大学間・高大連携、地域連携による生活文化体験学習を行うことができた。

2) 第1回日本デザイン学会第4支部(近畿・中国・四国地区)研究会を、平成21年10月17日(土)に、福山大学社会連携研究推進センター(広島県福山市)において実施した。発表者とテーマは以下の通りである。

・「型而工房の室内デザイン活動：蔵田周忠設計の住宅を中心に――協力関係の問題」敷田弘子(東京藝術大学大学美術館)+アンヌ・ゴッソ(フランス国立科学研究センター・外務省 在日共同研究所 所属研究員)

・「メンタルモデル構築レベル把握手法の提案」田中観自(和歌山大学大学院システム工学研究科 修士1年)

・「感性データの分析方法の一考察」山岡俊樹(和歌山大学)

・「StructuralモデルとFunctionalモデルを用いた問題解決に関する考察」山田雄紀(和歌山大学大学院システム工学研究科 修士1年)

・「紙による多面体造形実習(高校デザイン教育の現場から)」山形泰一(岡山県立岡山工業高等学校デザイン科)

・「ユニバーサル囲碁セットの開発」大田尚作(神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科)

・「パワーポイントによるインタフェースデザイン開発手法の提案」井上勝雄(広島国際大学)+岸本寛之(広島国際大学大学院)

・「祭りはゲームカスポーツカー伝統的祭りの分析と象徴的道具について」坪郷英彦(山口大学)

・「実践的なデザインの教育における効果」伏見清香(広島国際学院大学)

第5支部

前支部長 青木幹太

第5支部では、平成21年10月24日(土)に九州産業大学で「日本デザイン学会第5支部 平成21年度研究発表会・懇親会」を開催しました。この研究発表会・懇親会は、支部内の大学間、大学と企業間、学生間の交流を促進することや大学院生、学部生や企業人のデザイン学会活動への参加促進を目的に、平成18年より毎年、秋に開催しており、平成21年で4年目を迎えました。

昨年度の参加者数は、会員21名、非会員(学生を含む)65名の計86名でした。研究発表会は、口頭研究発表と学生発表(パネル・口頭)で構成され、口頭研究発表は全国大会の規定に準じて、A4・2ページの発表概要集を編集し、発表当日の進行も全国大会と同様の形式で行っています。口頭研究発表は37件と一昨年より9件増え、毎年、発表件数は増加傾向にあります。37件のうち28件が大学院生の発表で、9件が大学教員の発表でした。昨年度も一昨年と同様に和歌山大

学や名古屋大学という遠方からの研究発表があり、支部の研究発表会を盛り上げて頂きました。また学生発表（パネル・口頭）は7件で、口頭研究発表会場やその外側通路を利用して行ったこともあり、ほとんどの参加者が会場に詰めかけて学生の研究発表を熱心に聞き、活発な質疑応答がなされました。研究発表会後には懇親会を開催し、大学の教員や学生の皆さん32名が参加し和気あいあいとした雰囲気の中で親睦を深めることができました。本研究発表会の内容は「日本デザイン第5支部 平成21年度研究発表会概要集」にまとめています。

平成21年度（平成21年4月1日－平成22年3月31日）決算報告

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	予算額内訳	
平成20年度繰越金	12,484,524	12,484,524	0		12,484,524
1 正会員費（現）	18,917,600	18,032,443	885,157	76%	18,032,443
2 正会員費（新）	1,630,000	1,829,500	-199,500	@18,000×60名（一般 入会金：5,000、年会費：13,000） @13,000×58名（学生 入会金：免除、年会費：13,000）	1,075,500 754,000
3 賛助会員費（現）	999,000	1,009,685	-10,685	28件	1,009,685
4 賛助会員費（新）	60,000	30,000	30,000	1件	30,000
5 年間購読会員費（現）	1,475,000	1,303,000	172,000	54件	1,303,000
6 年間購読会員費（新）	50,000	0	50,000	0件	0
7 広告費	100,000	160,000	-60,000	2件	160,000
8 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）	0	0	0		0
9 学会誌掲載別刷料・負担金	3,840,000	2,697,500	1,142,500	論文集別刷料・カラー印刷負担金 作品集別刷料・カラー印刷負担金 08年度作品集別刷料・カラー印刷負担金	1,527,500 140,000 1,030,000
10 名簿売上金	1,225,000	0	1,225,000		0
11 概要集売上金	1,575,000	1,501,500	73,500	@3,500×429冊	1,501,500
12 預かり金		32,683	-32,683		32,683
13 雑収入	600,000	818,764	-218,764	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他	86,500 732,264 0
計	42,956,124	39,899,599	3,056,525		39,899,599

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	予算額内訳	
本部事務局 & 理事会関係					
1 本部事務局経費	7,612,000	6,733,044	878,956	消耗品代 運営経費（春季大会出張費用含む） パート雇用費 通勤費（@6,000×12） 事務合理化施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料（@150,000×12ヶ月） 光熱費 アルバイト雇用費（宛名整理、書類作成、発送、名簿作成補助等）	215,618 120,996 1,920,000 72,000 245,684 590,247 213,111 132,532 272,024 1,800,000 119,832 1,031,000
2 理事会運営費	300,000	198,392	101,608	会場借用料、理事会運営経費等	198,392
3 役員活動費	600,000	598,000	2,000	役員の諸活動に対する補助	598,000
4 名簿出版費	1,120,000	339,962	780,038	通信費 編集・チェック（アルバイト雇用費） 印刷費（@1,300×500冊） 送料	339,962 0 0 0
5 選挙経費	400,000	218,160	181,840	選挙に関する費用	218,160
出版関係					
6 論文審査・論文集編集委員会経費	480,000	480,000	0	消耗品代 通信費 書類作成費 論文集編集費 審査・編集会費	148,500 0 0 0 331,500
7 作品審査・作品集編集	250,000	248,740	1,260	前年度残金 消耗品代 通信費 書類作成費 作品集編集費 審査・編集会費	-1,260 0 0 0 0 250,000
8 学会誌編集・出版委員会経費	90,000	11,880	78,120	編集会議費 会報編集経費 通信費 消耗品代	11,880 0 0 0
9 特集号編集委員会経費	520,000	291,720	228,280	前年度残金 第16巻3・4号編集委員会 第17巻1号編集委員会 第17巻2号編集委員会 第17巻3号編集委員会 第17巻4号編集委員会	-260,000 130,000 45,860 115,860 130,000 130,000
10 印刷費	22,120,150	14,178,150	7,942,000	08年度論文集 08年度特集号（16巻3・4号） 08年度作品集 論文集（56巻1号～5号、5冊） 特集号（17巻1号～2号、2冊） 作品集（0冊） 概要集（1冊） 封筒代	1,312,185 1,200,150 1,569,750 6,279,000 1,986,600 0 1,398,600 431,865
11 出版物通信費	2,800,000	2,575,401	224,599	郵送料・事務代行料金（前年度分を含む@350,000×8）	2,575,401

大会関係		2,147,180	1,345,759	801,421	
12	大会補助費	750,000	750,000	0	平成21年度秋季大会補助 250,000
13	春季大会概要集編集委員会経費	200,000	179,800	20,200	平成22年度春季大会補助 500,000
					2009年度分残金 -20,200
					アルバイト雇用費（2010年度分） 200,000
					通信費（2010年度分） 0
14	春季オーガナイズドセッション費用	500,000	371,439	128,561	371,439
15	総会準備経費	30,000	19,950	10,050	総会経費、委任状・資料印刷代 19,950
					アルバイト雇用費 0
16	学会各賞選考委員会経費	140,000	24,570	115,430	書類作成費（学会各賞推薦状・資料等） 24,570
					通信費 0
					賞状・記念品代 0
					会議費 0
17	国際デザイン会議	527,180	0	527,180	国際デザイン会議会費 0
					国際デザイン会議活動費（運営会議活動費） 0
委員会関係		1,850,000	622,571	1,227,429	
18	委員会経費	500,000	3,150	496,850	共通費 3,150
19	研究部会共通経費	500,000	270,451	229,549	共通費（8研究部会） 270,451
20	支部活動補助費	800,000	348,970	451,030	3支部 348,970
21	市販図書企画・編集経費（デザインの歩み）	50,000	0	50,000	編集費 0
広報関係		850,000	238,680	611,320	
22	広報費	850,000	238,680	611,320	大会ポスター、チラシ作成費・通信費 238,680
					ホームページ充実化 0
					その他 0
その他		1,816,794	1,328,610	488,184	
23	学協会関連	435,000	282,860	152,140	学術会議活動費 13,860
					芸術関連シンポジウム分担金 15,000
					日本工学会活動費 0
					日本工学会会費 34,000
					CPD協議会会費 50,000
					JABEE年会費 100,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合会費 70,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 0
24	学会本部事務局常設基金	1,000,000	1,000,000	0	一般会計より特別会計に繰り入れ 1,000,000
25	予備費	381,794	45,750	336,044	45,750
26	次年度繰越金	0	10,490,530	-10,490,530	10,490,530
計		42,956,124	39,899,599	3,056,525	39,899,599

[特別会計]

項目	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	増減 対予算額	予算額内訳
学会本部事務局常設基金	14,194,413	15,214,765	-1,020,352	一般会計より、¥1,000,000-+利息(¥20,352-)：基金に繰り入れ

平成21年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

平成22年5月21日 日本デザイン学会

本部事務局長 國澤



副本部事務局長 寺内



本部事務局幹事 小野



本部事務局員 松原



監査 原田



監査 杉山



平成22年度活動計画

論文審査・論文集編集委員会

委員長 渡邊誠

本年度は、委員として森田昌嗣（九州大学）、寺内文雄（特設理事）（千葉大学）、両名の協力を得て、以下の諸活動を展開していく予定です。第57巻第1号（通巻199号）～第6号（通巻204号）の定期刊行・投稿件数増加策、投稿分野偏り是正策の検討・新設投稿区分の実現「学会の顔」ともいえる論文集をさらに充実すべく、より積極的な活動を展開していきたいと考えておりますので、幅広い分野からの投稿をお願いいたします。・論文集のデジタルアーカイブ化の検討論文集のデジタルアーカイブ化について前向きに検討を行いたいと考えています。なお、論文審査委員会事務局は下記の通りです。

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻内

日本デザイン学会論文審査・論文集編集委員会事務局

TEL：043(290)3090

E-mail：ftera@faculty.chiba-u.jp

作品審査・作品集編集委員会

委員長 須永剛司

本年度から2年間、新たなメンバー構成で本委員会を運営します。前年度までの計画を継承し、より魅力的な作品集を編纂することを目標に本年度は以下業務を推進します。

（1）デジタル作品（インタフェースやコンテンツの動的表現）掲載のために、DVD-ROM添付を実験的に試みます。合わせて予算との整合をとるために、現行雑誌（カラー）をモノクロ印刷に変更します。

（2）作品集応募の方式を改訂します。デジタル作品の掲載にともなうオーサリング編集期間を設けるため、現行の「応募書類」方式を変更し、作品集掲載書式で「応募原稿（9月末締切り）」→「最終原稿（11月末締切り）」の2段式とします。

（3）論文集・作品集・特集号のあり方について関係委員会との検討の機会をもちます。

学会誌編集・出版委員会

委員長 小林昭世

平成22年度には、前委員会から以下の特集号を引き継ぎ、一部は刊行済み、一部は刊行の準備中です。また、今年度中に来年度の特集号の計画をつくり、刊行を推進します。大きな、しかし難しい課題である「刊行スケジュールに従った刊行」に取り組んでいきたいと思ひます。

-18巻1号（通巻70号）「シミュレーションとプロトタイプ」（2009年度春季／秋季大会）（編集担当、古屋繁先生、阿部真里先生、菊池司先生）2010年5月刊行

-18巻2号（通巻71号）「情報デザイン」（編集担当、敦賀雄大先生、須永剛司先生）2010年7月刊行

-18巻3号（通巻72号）「デザインと資格」（編集担当、山崎和彦先生、五十嵐浩也先生）2010年9-10月刊行

-18巻4号（通巻73号）「地域デザインを考える／長野県の地域資源と感性価値」（2010年度春季大会）（編集担当、禹在勇先生、宮崎清先生）2011年3月刊行

-19巻1号（通巻74号）「Design Thinking」（編集担当、永井由佳里先生）2011年5月刊行。

なお、今年度の委員会構成は、車政弘理事、永井由佳里理事、佐藤浩一郎幹事、田代祐子幹事です。

研究推進委員会

委員長 古屋繁

デザイン学研究の基幹として、会員にとって価値ある研究部会の活動のありべき姿を各研究部会と再確認することで、会員にとってよりメリットのある学会をめざした部会活動のさらなる推進と活性化をはかることを、昨年度に引き続き平成22年度の目標と考えます。そのために、研究部会相互の連携のための方法や仕組みづくりなどに腐心していきます。具体的には、次のような活動を計画しています。

（1）研究部会活動の支援

春季研究発表大会では、平成22年度も研究部会統括セッション（略称：テーマセッション）を継続し募集した結果、5つの研究部会（デザイン理論・方法論研究部会、家具木工部会、創造性研究部会、情報デザイン研究部会、サービスイノベーションデザイン研究部会）と研究部会によらない特設セッション（サービス・GUI・製品デザイン方法）によるテーマセッションが設けられる運びとなりました。これらの研究部会の活動内容を把握し、部会相互の連携や部会活動全体がさらに活発になるような仕掛けを各部会と協議します。

（2）部会による研究活動の発展的展開

これまでの研究活動を広く社会に還元し、またさらなる活動の起爆剤とするために、昨年度実施できなかった「研究部会主導の編纂図書の刊行支援」を本年度は是非実施したいと考えています。

図書刊行は、学会の研究内容を社会に公知するための一つの大きな手段ですが、これらを具体的に推進するためには図書刊行のノウハウを知らなければなりません。そのための勉強会を開催し、図書刊行を支援します。

（3）研究活動の広範な推進

1）秋季企画大会の活性化

今日的なデザインの課題をとりあげ、考える場として秋季企画大会をとらえ、企画委員会と合同で企画していきます。本年度は、平成22年11月13日(日)に筑波大学で「地域振興とデザイン(案)」をテーマに開催予定です。会員諸氏にも是非協力をお願いします。また、秋季企画大会では学生プロポジションも同時に開催予定です。こちらも、学生の交流の場として、有効に機能するように運営等を工夫していきたいと考えています。

2) セミナー・講演会の実施

秋季企画大会が、デザインの今日的課題に取り組み、会員の皆さんとテーマについて考えていこうとするのに対して、会員の拡大と多様な会員のニーズに答えるため、また学会として社会にデザインの新しい情報発信する場として、セミナー・講演会(仮)を企画・開催します。学会ならではの、学会でしかできないことを発信していきたいと考え、場合によっては、他の学協会との連携も視野に入れて、企画を立案中です。

その場合、関連する研究部会にもご協力をお願いしたいと考えています。各研究部会がもつおのおの研究領域における様々なメソッドや知見の中には、領域を横断して活用可能なものも数多くありますので、それらを会員間で共有し、新たな研究の手がかりの発見や研究領域の拡大につなげるコンテンツとして発信できるものにしたいと考えています。

企画委員会 総合企画

委員長 尾登誠一

学会のさらなる活性化と拡張にむけ、さらには学生キャンペーンとの連動性に配慮して、以下の3つを活動指針としたい。

1. 拡大するデザイン領域を横断的に貫く連繋のありようをひきつづき探検しつつ、重ねて社会連繋や地域連携のありようを計画立案する。特に秋季大

会については、学生参加を喚起させるテーマの内容と運営について新機軸を模索したい。

2. 前述した指針に添い、学会内外の要請に呼応する魅力的なテーマの設定と大会を実施する。

□平成22年度春季研究発表大会

会期：平成22年7月2日(金)～4日(日)

会場：長野大学

テーマ：「和の文化」と「デザイン」- 伝統と現在・未来 -

・基調講演「"今"に生かす庶民文化」

・オーガナイズドセッション

1. 「学生企画セッション」

2. 「地域資源を活用した地域振興デザインを考える」

3. 「これからの商品開発におけるデザインの役割とスキル」

4. 「デザイン学のデザイン」

5. 「感性価値と地域デザイン」

・口頭発表

・ポスターセッション

□平成22年度秋季企画大会

会期：平成22年11月13日(土)

会場：筑波大学

テーマ：地域振興とデザイン(案)

・基調講演

・パネルディスカッション

・学生セッション(仮)

・学生プロポジション

3. 学生会員制度の整備

現時点に於ける学生会員制度は、会員の裾野を広げるための措置として、キャンペーン方式での入会金無料、年会費半額の減免措置を2年間施行中である。企画委員会としては、その状況と成果を踏襲しつつ、会則改定の是非についての検討を引き続き行いたい。

企画委員会 支部企画

委員長 青木幹太

平成22-23年度日本デザイン学会の活動方針の中に、「支部活動活性化策のさらなる推進」が明示され、支部間における活動情報の共有と連携強

化および活動単位(支部地区割)の検討が定められています。平成22年度、第1支部から第5支部までの活動計画は、研究発表・交流会や研究会の開催(第2、3、4、5支部)、講演会の開催(第3、4支部)、メーリングリストの活用等による会員間の情報交流や地域ネットワークの拡大(第3、4支部)、合同卒業・修了優秀作品展の開催(第5支部)、地区大学間の関係を深める方向性の検討(第1支部)など支部の地域性や独自性を踏まえた内容になっており、支部活動が定着してきてことが分かります。平成22年度は支部活動をさらに推進するために、①支部活動の内容やその成果に関する情報、②年度毎の活動報告及び活動計画に関する情報、③理事会等に関する情報を随時、集約し、支部間で共有することで連携を深めていきます。将来的には支部活動の成果を他支部の活動に積極的に導入する、支部連携による研究発表・交流会や講演会を開催する等の基盤をつくっていききたいと考えています。また活動単位の検討については、該当する支部間で協議、調整するとともに支部活動の活性化の視点から、適切な活動単位に向けて環境整備を進めていきます。

教育・資格委員会

委員長 蓮見孝

今年度も引き続き前年の活動を継続しながら、「継続教育」について、より具体的なくみづくりを進めます。日本デザイン学会と密接に連携しながら、「ポイント制度」や「ロードマップ」について設計検討をおこないます。また論文審査委員会や作品集編集委員会とともに、継続教育を視野に入れた論文投稿区分の見直し等を検討するとともに、インハウスデザイナーやフリーランスデザイナーを含め、デザインの実務領域で活躍するさまざまな職能・立場の人と活動成果を共有できる活発な学会のあり方につなげたいと思いま

す。また資格制度の設立に向けて、引き続き関連他学会、(社)日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)等の職能団体、及び(財)日本産業デザイン振興会(JIDPO)等のデザイン機関等ともより密接に連携し、実現に向けた検討を深めていきます。

広報委員会

委員長 山中敏正

本委員会の機能は、会員諸氏と学会活動をつなぐインタフェースのマネージメントであると同時に、学会活動と社会、学会活動と世界をつなぐことである。

これまでの委員会で、電子図書館構想への対応、wwwコンテンツの充実、論文データベースの作成など学会情報の発信機能を中心に学会活動に貢献してきた流れを引き継ぎ、さらに充実した活動を行いたい。

1. 情報コンテンツの適切な活用による学会員サービスの向上

電子図書館サービスにおける資料提供範囲を拡張する努力を行い、学会誌のより柔軟な活用方法につなげる。このため、1997年以前の学会誌掲載論文の電子的複製権の譲渡について、本年度の総会で審議していただき、早急に本学会誌の電子データベース化を完成する。

2. 著作権規定の見直しと効率的運用を検討する

機関リポジトリ問題、電子化された著作物の中に含まれている図版などの著作権処理問題など、検討すべき課題が山積している。これらを逐一検討し、適切な対応を行っていききたい。

3. オンラインジャーナル化の準備

JSTのオンラインジャーナル編集システムに対応するための具体的検討を進める。

4. wwwのコンテンツの維持管理

wwwによる適切な情報提供を推進する。

5. DRDおよびDCD資源の有効活用

1995年以来更新してきたDRD(Design Research Database)は、2000年度の情報で情報更新を終えているが、ここでまとめられた資源を上記情報コンテンツの設計とあわせて有効に活用する方法を引き続き検討する。

6. 英文による情報提供方法について引き続き検討する。

いずれにしても、広報委員会の業務は、他委員会業務との連動関係で成り立っている。各種委員会からの発信情報を常に広報委員会との関連の上で考えて頂くよう、願いたい。

財務委員会

委員長 野口尚孝

学会財務の健全な運用のため、当初いくつかの活動方針を立てましたが、その内、昨年度は、主として次の様な活動を中心として行いました。

(1) 若手会員の入会と学会での研究活動を支援するため、主として経済的負担の軽減を内容とした学生会員制の実現を視野に、その可能性を探るために、企画委員会との協力により、2年間の期限付きで大学院生を対象とした入会金および年会費減免のキャンペーンを実施することとした。

(2) 学会経費でもっとも支出額の大きい、論文誌出版事業の合理化を図るため、論文誌電子購読化の可能性を探る。

本年度は、(1)に関しては、本部事務局の協力のもとで、すでに出発した上記キャンペーンへの応募状況を調査し、本年度中に、その評価を行うとともに、学会全体としての若手会員の増加と、会費等の減免による減収分と研究誌の送付停止とその電子化(ダウンロード)による支出減のバランスが取れるかを見定め、どのような形で会の規約改正を実施できるかを検討したいと考えています。

また(2)に関しては、広報委員会と協力し、J-stageなどの活動を通じ

て論文の電子購読化の実現に向けて著作権問題などをクリアしながら、財務的な可能性を視野に入れてどのようなステップが可能かを考え、少しでも早くその実現に向けての一步を踏み出せるようにしたいと考えています。

市販図書企画・編集委員会

委員長 宮崎清

平成21年度の活動計画として、次の2点を掲げておりました。

①『デザインのあゆみ事典』(仮称)の市販図書としての編纂に向け、今までに完成している明治以降から今日までの年表、今までにいただいている史実解説をCDに整理し、整理が終わった段階で、学会報等を通じて本学会員諸氏から希望者を募り、お申し出いただいた方々にCDをお届けするとともに、ご執筆いただける史実解説のご執筆を依頼する。このような手順を経ながら、市販図書としての刊行が可能か否かを判断していく。

②市販図書の刊行は、『デザインのあゆみ事典』(仮称)に限ることなく、例えば学会誌に掲載されてきた論文を再編集し、いくつかのテーマに分けて、広く市民にもお読みいただける図書を刊行することも可能なように思われ、その可能性をも含め、検討を進める。

平成22年度は、鋭意、上記の①ならびに②の作業を行うこととしております。

①については既にいただいている原稿の整理が昨年度にだいぶ進展しましたので、遅くとも本年度には、希望者にCDを配布するとともに、ご執筆いただける史実解説の依頼をする予定です。

②については、昨年度に学会誌創刊号から最新号までに掲載された研究論文のジャンル別分類に着手いたしましたので、本年度はその作業の進展を図り、それが終了したところで、ジャンル別委員を選考し、市販図書としての企画を立てていきたいと考えていま

す。

IASDR担当

担当理事 杉山和雄

本年度は、2011年にオランダで行われる第4回IASDR11の運営に向けて準備する年にあたると同時に、IASDR13の開催準備にとりかかる必要がある。日本デザイン学会が幹事学会となることで調整済であり、理事会を中心として計画を立案を行う。

また、引き続きIASDR活動の活性化、特に学会誌また論文の評価などの可能性など、デザイン研究の発展に寄与する活動を積極的に検討し、日本デザイン学会全体の取り組みを促して行きたい。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

担当理事 黒川威人

担当理事 清水泰博

2002年「日本学術会議法」が一部改正され、これに伴う組織の改変によって消滅した「芸術学研究連絡会」を後継するものとして「芸術学関連学会連合」が発足して5年目となりました。

学術会議の役割の一つである「科学者間ネットワークの構築」を目指し15の学会が参加していますが、主な活動である公開シンポジウムは先般フライヤーでご案内の通り、第5回目を東京都現代美術館において日本学術会議哲学委員会 芸術と文化環境分科会との共同主催、東京都現代美術館との共催によって6月12日に開催、盛況裏に終えたところです。

昨年、役員の改選があり会長は東大の西村清和氏に代わった他、本会からは監査として清水泰博理事（芸大）が加わることとなりました。これに伴い日本デザイン学会の担当理事として本

年度からは清水氏にも加わっていただくことを先の理事会で要請し承認されました。

これまで芸術学関連学会連合のシンポジウムには本学会からのテーマ採択・パネリスト参加等の実績はありませんが、今後は、二人の理事の協力により実績を上げていきたいと考えています。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

日本学術会議

第三部／理学・工学

担当理事 蓮見孝

日本学術会議の活動に参画し、デザイン学の立場から科学の社会的浸透を図るとともに、新たに科研費の時限付き分科細目に上げられたデザイン学への応募が積極的におこなわれ、通常の分科細目に位置づけられるように支援していきます。また日本学術会議において関連諸団体と連携しながら地道な活動を継続的におこない、デザイン学の一層の認知向上と普及を図っていきます。

横断型基幹科学技術

研究団体連合

担当理事 松岡由幸

昨年度まで担当されていた山中理事から引き継ぐかたちとなった。元来、デザイン学は、横断型基幹科学技術の根幹をなす学術領域との考えから、当学会は、横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考える。この視点に立脚し、当面、今年度は、横幹連合に今後当学会がどのような関わりを持つことで、デザイン学の発展に寄与できるかを見極めたい。

この考えに則り、まずは、横幹連合の学術上の中核を担う「学としての知の統合委員会」（横幹連合の会長&委

員長：木村英紀氏）との連携を図る。また、当学会のデザイン理論・方法論研究部会と連動している日本機械学会 Design 理論・方法論研究会（主査：村上存氏）の主催によるワークショップ「デザインを科学する」（9月7日（火）、名古屋工大にて）が開催される。ここでは、先の横幹連合の会長である木村英紀氏に加えて、当学会メンバである村上存氏と松岡の3名による講演が行われる予定であり、先述の横幹連合との在るべき関係性や今後の連携の可能性を模索したい。

日本工学会

担当理事 國澤好衛

日本工学会の事務研究委員会は、概ね会員学協会の事務局長を委員として構成されており、事務研究委員会での議論は、学協会が抱える喫緊の課題そのものとなっています。現在の主要課題である、公益法人制度改革に伴う公益認定への対応および学協会連携して行う横断的な継続教育については、当学会においても極めて重要なテーマとなっています。これまでも、事務研究委員会をベースに関連情報の収集と他学協会の動向などを探ってきましたが、今後もこの場を活用し継続して先行する学協会の状況をベンチマークし、当学会の今後の法人化や継続教育への有用な視点を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

本部事務局

本部事務局長 國澤好衛

本年度も、これまで以上に各委員会、支部、部会等と連携し、サービススタッフとして学会活動を支えていきたいと考えております。既に示されております22年度基本方針に沿って具体施策に取り組むことが基本となりますが、まずは昨年度発行できなかった会員名簿をできるだけ速やかに発行したいと

考えております。またCPD制度の準備といった、事務局の事務運営に直接かかわる事業も想定されることから、事務局としての効率的な仕組みづくりと遅滞ない推進を心がけていきたいと考えています。また、ここ数年の傾向としてみられる、会員数の減少と賛助会員の退会への対応も重要な問題と考えております。一方、財務的には一時期に比べキャッシュフローは飛躍的に改善してきておりますが、収入減による予算規模の縮小など懸念材料もあることから、一層の財務体質強化に向けた取り組みが必要と考えております。またそのための広報活動にも、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。また懸案であります、法人化につきましましては、他学協会の動向を注視しつつ検討を進めてまいりたいと考えております。

事務局としては、今年度も引き続き学会の窓口として、会員の皆様方へのきめ細やかな対応につめていく所存ですので、関係各位のご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

第1支部

支部長 梨原宏

第1支部では2年に1回、支部大会を開催し、距離的に離れている会員同士の連携を深め情報を分かち合う活動を進めてきた。それを受けて、本年度は、平成21年の北海道地区での大会開催に引き続いて、平成23年に札幌市立大学を会場にして、第一支部第4回支部大会を開催する方向で準備を進める。そのために、支部理事、若手幹事、および札幌市立大学、近隣大学が中心となり、東北地区、北海道地区の会員、学生、市民らができるだけ多く集まれるような大会テーマと開催企画を考えたい。

一方、距離的な問題や開催内容により、支部大会に参加できない会員が多数いることも確かである。会員から、本大会とは別に時間的、距離的に集ま

り易い大学間相互で、適時、研究会、セミナー、作品展示会などを開き、関係を深めたいとの意見が出されている。東北、北海道それぞれの地区の中で、近隣の大学間との話し合いを通して、どのようにしたら関係を深めることができるのか、その方向性を探ることを本年度の課題としたい。

第2支部

支部長 佐々木美貴

今年度第2支部は、環境デザイン部会、筑波大学など、支部長、副支部長関係の方々にご協力を頂き、環境デザインや感性工学の視点も加えた活動の展開を考えています。

第2支部は首都圏を抱えているという特徴を活かし、都市近郊の諸問題に取り組みながら、会員相互の考察を通じて支部内での交流に務めます。

今年度の計画は、環境デザイン部会の今年のテーマである、「都市農園」や、支部長関連のNPO もうひとつの住まい方推進協議会の取り組む「高齢者住居、共同の住まい」等、「まちづくり」に感性を加味したかたちで当初の切り口を設定できるのではないかと考えています。その中で、地区会員とのやり取りから、その次への広がる活動を構築できればと思います。

また、関東には多数の大学があります。日本デザイン学会への導入口として、学生、若い研究者や現場の方など、多方面の方との交流を行います。今後の社会とデザインの貢献に繋がるよう、講演会、セミナー、発表の場としての支部活動を推進して行きたいと考えますので、支部会員の皆様の積極的なアプローチをお待ちしています。

第3支部

支部長 佐々木尚孝

第3支部は北信越5県と東海4県という広い地域の会員で構成されていま

す。そこで、会員相互の情報と人的な交流をすることにより、地域活動の活性化を図ることを目標として事業を行っています。今年度も平成18年度から実施している活動を継続して行うことを予定しています。

1. 研究発表・交流会の開催

第3支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図ることを目的としています。例年3月に年1回開催し、学会発表の練習機会ともなっています。口頭発表とポスター発表があります。

2. 会員間の情報交流の充実：Webサイトとメーリングリストの充実

Webサイトとメーリングリストによる情報交流の充実を目的として、配信方式や規程などの検討と変更を行い、学会活動のポータルサイト化を目指します。

3. デザインカフェの実施

地域や他分野の人々との交流とデザイン啓蒙等を目的として、気軽にディスカッションができる“カフェ”形式の小規模講演会を開催します。

4. 他支部や関連組織との情報交流の促進

他支部や第3支部地域における他の学会やデザイン関連組織の活動情報の交流を行うことにより、共通課題の発見や共同活動に向けての情報資料の充実を目的とします。

第4支部

支部長 三橋俊雄

第4支部では、1)ユニバーサルデザイン研究会(森本/岡田)、2)インタラクティブデザイン研究会(高橋/森本)、3)地域生活文化研究会(三橋/面矢)、4)近畿・中国・四国地区研究会(坪郷)など、関西地区での活動を中心として行う。ユニバーサルデザイン研究会では、みやこユニバーサルデザインフォーラムや京都市と連

携して、実践的な UD 活動を推進するための研究会を開催する。インタラクティブデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクティブデザインの関係について参加者と議論する。地域生活文化研究会では、生活現場の調査を通して、生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねていく。近畿・中国・四国地区研究会では、研究会を横断的なテーマ設定で企画開催し、サロンのような議論の場を創出していく。今後はメーリングリストを活用し、地域ネットワークのさらなる拡大をめざしていく。以上のほかに、関連学会支部との研究会等の共催も、支部メンバーの協力を得て検討していく。

第5支部

支部長 青木幹太

第5支部では、学会活動方針である「支部活動活性化策のさらなる推進」に基づいて、平成18年より実施している「研究発表会・懇親会」における研究発表件数の拡大及び発表内容の充実、さらに九州地域の大学間の情報交換や交流促進を目的にした「九州デザイン六大学展2010」を計画しています。

1. 平成22年度研究発表会の開催

平成17年から年1回開催してきた第5支部研究発表会は、年々、研究発表件数が増えるなど定着、発展してきています。本年度の研究発表会・懇親会は支部内の大学間や大学、企業間、学生同士の交流の促進と大学院生、学部生のデザイン研究や学会活動への参加促進を目的に、次のような課題を設定しています。

① 研究発表会の内容の充実
大学院生の研究発表の割合が多いことから、概要集原稿の事前審査を丁寧に行い、発表準備の徹底を促すなど、研究発表会の内容の充実を図ります。

② 学生作品プロポジションの充実
学部のデザイン実習等の成果について、各大学から1件以上の提出を求め、デザイン教育に関する教員間の情報交換とともに学会発表の体験を通して、学生のデザイン研究への関心を高めていきます。

本年度は、10月下旬に崇城大学で開催致します。

2. 九州デザイン六大学展2010〔合同卒業・修了優秀作品展〕の開催

平成22年6月5日（土）から6月12日（土）まで、九州大学大橋サテライト・ルネットで、平成21年度の九州地区の大学、短大等の卒業・修了制作の中から優秀作品を集めて「九州デザイン六大学展2010」を開催します。搬入日の6月5日（土）には、午後から学生によるプレゼンテーションと懇親会を予定しています。

平成22年度（平成22年4月1日-平成23年3月31日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
平成21年度繰越金	10,490,530		10,490,530
1 正会員費（現）	18,220,800	@13,000×1,747名×0.8(徴集率)	18,168,800
		@6,500×10名×0.8(徴集率)	52,000
2 正会員費（新）	1,305,000	@18,000×40名（一般 入会金：5,000, 年会費：13,000）	720,000
		@6,500×90名(学生 入会金：免除, 年会費：6,500)	585,000
3 賛助会員費（現）	981,000	36件(1,090,000)×0.9	981,000
4 賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費（現）	1,275,000	@25,000×51件	1,275,000
6 年間購読会員費（新）	75,000	@25,000×3件	75,000
7 広告費	100,000	@50,000×2件	100,000
8 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）	0		0
9 学会誌掲載別刷料・負担金	4,220,000	論文集別刷料・カラー印刷負担金（@25,000×12×6）	1,800,000
		作品集別刷料・カラー印刷負担金（@70,000×6+@100,000×6）	1,020,000
		09年度作品集別刷料・カラー印刷負担金（@70,000×20）	1,400,000
10 名簿売上金	1,225,000	@3,500×350冊	1,225,000
11 概要集売上金	1,400,000	@3,500×400冊	1,400,000
12 雑収入	750,000	学会誌売上	50,000
		NII-ELS還元金、補助金、預金利息等	700,000
		その他	0
計	40,072,330		40,072,330

■支出の部

項目	予算額	予算額内訳	
本部事務局 & 理事会関係		8,462,000	
1 本部事務局経費	6,932,000	消耗品代	250,000
		運営経費（春季大会出張費用含む）	200,000
		パート雇用費	1,920,000
		通勤費（@6,000×12）	72,000
		事務合理化施設設備費	0
		通信費及び電話代金	750,000
		印刷代	250,000
		雑費	150,000
		会費引き落とし経費	150,000
		賃賃料（@150,000×12ヶ月）	1,800,000
		光熱費	140,000
		アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿作成補助等)	1,150,000
		税金準備金	100,000
2 理事会運営費	250,000	会場借用料、理事会運営経費等	250,000
3 役員活動費	600,000	役員の諸活動に対する補助	600,000
4 名簿出版費	680,000	通信費	0
		編集・チェック（アルバイト雇用費）	100,000
		印刷費(@1,200×400冊)	480,000
		送料	100,000
5 選挙経費	0	選挙に関する費用	0
出版関係		25,895,685	
6 論文審査・論文集編集委員会経費	480,000	消耗品代	5,000
		通信費	5,000
		書類作成費	30,000
		論文集編集費	40,000
		審査・編集会費	400,000
7 作品審査・作品集編集	250,000	消耗品代	20,000
		通信費	10,000
		書類作成費	20,000
		作品集編集費	50,000
		審査・編集会費	150,000
8 学会誌編集・出版委員会経費	90,000	編集会議費	50,000
		会報編集経費	30,000
		通信費	5,000
		消耗品代	5,000
9 特集号編集委員会経費	520,000	第18巻1号編集委員会	130,000
		第18巻2号編集委員会	130,000
		第18巻3号編集委員会	130,000
		第18巻4号編集委員会	130,000
10 印刷費	21,995,685	09年度論文集（@1,175,685×1冊）	1,175,685
		09年度特集号（@950,000×2冊）	1,900,000
		09年度作品集（@3,000,000×1冊）	3,000,000
		論文集（@1,250,000×6冊）	7,500,000
		特集号（@900,000×4冊）	3,600,000
		作品集（@2,900,000×1冊）	2,900,000
		概要集(650冊印刷)	1,500,000
		封筒代	420,000
11 出版物通信費	2,560,000	郵送料・事務代行料金（前年度分を含む@320,000×8）	2,560,000

大会関係		1,910,000		
12	大会補助費	750,000	平成22年度秋季大会補助	250,000
			平成23年度春季大会補助	500,000
13	春季大会概要集編集委員会経費	200,000	編集費・書類作成費（2011年度分）	10,000
			アルバイト雇用費（2011年度分）	170,000
			通信費（2011年度分）	20,000
14	春季オーガナイズドセッション費用	400,000		400,000
15	学会セミナー費用	100,000		100,000
16	総会準備経費	20,000	総会経費、委任状・資料印刷代	20,000
17	学会各賞選考委員会経費	140,000	書類作成費（学会各賞推薦状・資料等）	5,000
			通信費	5,000
			賞状・記念品代	80,000
			会議費	50,000
18	国際デザイン会議	300,000	国際デザイン会議会費	0
			国際デザイン会議活動費（運営会議活動費）	300,000
委員会関係		1,650,000		
19	委員会経費	300,000	共通費	300,000
20	研究部会共通経費	500,000	共通費（現行16研究部会）	500,000
21	支部活動補助費	800,000	@150,000×4支部, @200,000×1支部	800,000
22	市販図書企画・編集経費（デザインの歩み）	50,000	編集費	50,000
広報関係		450,000		
23	広報費	450,000	大会ポスター、ちらし作成費・通信費	300,000
			ホームページ充実化	100,000
			その他	50,000
その他		1,704,645		
24	学協会関連	405,000	学術会議活動費（@60,000+@30,000）	90,000
			芸術関連シンポジウム分担金	15,000
			日本工学会活動費	10,000
			日本工学会会費	40,000
			CPD協議会会費	50,000
			JABEE年会費	100,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
25	学会本部事務局常設基金	1,000,000	一般会計より特別会計に繰り入れ	1,000,000
26	予備費	299,645		299,645
27	次年度繰越金	0		0
	計	40,072,330		40,072,330
[特別会計]				
項目		予算額	予算額内訳	
学会本部事務局常設基金		16,214,765	平成22年度決算額	16,214,765

日本デザイン学会 学会誌 掲載著作物の有効活用と公開 方法の改変

1. 公衆送信権の行使について

日本デザイン学会では、学会誌論文を電子化してデータベースとして活用するために、印刷物を対象とした「複製権」の他に「公衆送信権」を学会が行使できる必要があることから、1997年から学会誌に掲載された論文の著作権の規定を変更し、学会誌を電子的手段により閲覧できるようにしてきました。

投稿規定における著作権の扱い

- 本誌に掲載された論文など全ての著作物の著作権は、原則として本学会に帰属する。但し、特別な事情により著作権が本学会に帰属し得ない場合は、申し出により、本学会と著作者の協議に基づいて措置する。
- 前項の規定のうち、著者が自分の論文などを私的利用の範囲を超えて複製・転載等のかたちで利用することは自由である。この場合、著作者はその旨を本学会に通知し、掲載先には出典を明記する。
- 学会は、著作物を学会誌以外の媒体で印刷・販売するときには、学会誌を通じて、あるいは個別に著者にその旨連絡し、必要に応じて協議により措置する。
- 著作権に関する問題は、著者の責任において処理する。
- 工業所有権については、本規定の範囲外とする。

これに基づき、現在では国立情報学研究所が運営する学術情報データベースCiNiiを通じ、学会論文が広く研究者の参考文献として活用されてきております。デザイン学研究がオンライン化されたことの恩恵は計り知れず、総合的にデザイ

ン学研究の発展に寄与していることは紛れもない事実であります。

一方で、この改正が適用される前の1996年以前に学会誌に掲載された論文については、電子化ができませんでした。今後、デザイン学の歴史的、研究的価値を一層高めるために、1996年以前に執筆、掲載された本学会誌掲載論文についても電子化を推進していくことは学会の使命でもあると考えられます。

1-2. 提案

本提案では、現行の論文投稿規定が適用される以前に本学会の学会誌「デザイン学研究」に掲載された著作物について、公衆送信権を学会が行使すること提案いたします。

提案

- 日本デザイン学会誌「デザイン学研究」に掲載された論文など全ての著作物について、その公衆送信権を本学会が制作あるいは情報を提供する学術的電子情報閲覧システムに対して本学会が行使できるものとする。但し、特別な事情により公衆送信権を本学会が行使出来ない場合は、申し出により、本学会と著作者の協議に基づいて措置する。
- 本規定における公衆送信権の行使は、本学会の理事会において承認された電子媒体について適用されるものとする。
- 本規定は、著者による公衆送信権の行使を制限するものではない。
- 論文中に含まれる引用著作物などに関する問題が生じた場合は、学会において適切に処理し、その結果を著者に報告する。

2. 機関リポジトリへの対応（報告）

2-1. 概要

近年、研究成果の電子化と、研究者所属機関の情報の収集利活用のため「機関リポジトリ」の動きが盛んになってきてい

ます。

＜学術機関リポジトリとは＞

機関リポジトリとは、大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービスです。
《出典：<http://www.nii.ac.jp/irp/about/>》

2-2. 対応

本学会でも、会員が本学会に投稿し、採択された論文を所属機関においてリポジトリすることに対して許諾を求められています。

理事会では、機関リポジトリの可能性を検討した結果、本学会の論文が広く流通するという利点と、本学会誌に掲載された原著論文であることの保証という学会の使命を満たす必要から、以下の方法で機関リポジトリを許諾することといたしました。

2-3. 機関リポジトリへの対応

学会誌に掲載した原稿は著作権を学会が保有しており、その複製および電子的送信は学会が管理しているが、学会誌に掲載が決定した著者の「原稿」は著者の所属機関におけるリポジトリに限り提供されることを許諾する。

但し、学会誌に掲載された状態（学会誌のヘッダー（acceptedの日付など）を含んだ別刷りの状態）でのリポジトリは許可しない。

著者は、機関リポジトリにあたって、掲載された雑誌の、雑誌名、巻、号、ページを明記してリポジトリし、機関リポジトリに原稿を提供した旨を本学会論文審査委員会に連絡するものとする。

以上

日本デザイン学会広報委員長
山中敏正

名誉会員賞贈呈

7 3 号 君島 昌之 氏

7 4 号 早坂 功 氏